令和６年度(2024)

履修の手引

奈良学園大学
NARAGAKUEN UNIVERSITY
保健医療学部

2024年度　授業スケジュール

【前期】授業スケジュール

情報更新日　2023/12/25

	日	月	火	水	木	金	土	備考
		4/1	4/2	4/3	4/4	4/5	4/6	
				入学式				
	4/7	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12	4/13	
		①	①	①	①	①		
4月	4/14	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	
		②	②	②	②	②		
	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	
		③	③	③	③	③		
	4/28	4/29	4/30					4/29:授業実施日
		④	④					

	日	月	火	水	木	金	土	備考
				5/1	5/2	5/3	5/4	
				④	④	–	–	
	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	
		–	⑤	⑤	⑤	④		
5月	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18	
		⑤	⑥	⑥	⑥	⑤		
	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	
		⑥	⑦	⑦	⑦	⑥		
	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31		
		⑦	⑧	⑧	⑧	⑦		

	日	月	火	水	木	金	土	備考
							6/1	
	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	
		⑧	⑨	⑨	⑨	⑧		
	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	
6月		⑨	⑩	⑩	⑩	⑨		
	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	
		⑩	⑪	⑪	⑪	⑩		
	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	
		⑪	⑫	⑫	⑫	⑪		
	6/30							

2024年度　授業スケジュール

【前期】授業スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土	備考
		7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	
		⑫	⑬	⑬	⑬	⑫		
	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	
		⑬	⑭	⑭	⑭	⑬		
7月	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	
		⑭	⑮	⑮	⑮	⑭		7/15:授業実施日
	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	
		⑮	補講期間			⑮		
	7/28	7/29	7/30	7/31				
		前期試験						

	日	月	火	水	木	金	土	備考
					8/1	8/2	8/3	
					前期試験			
	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	
8月	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	
	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	
		前期追再試験						
	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	

	日	月	火	水	木	金	土	備考
	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	
9月								
	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	

2024年度　授業スケジュール

【後期】授業スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土	備考
	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/16:授業実施日
		①	①	①	①	①		
9月	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/23:授業実施日
		②	②	②	②	②		
	9/29	9/30						
		③						

	日	月	火	水	木	金	土	備考
			10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	
			③	③	③	③		
	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12	
		④	④	④	④	④		
10月	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/14:授業実施日
		⑤	⑤	⑤	⑤	⑤		
	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	
		⑥	⑥	⑥	⑥	⑥		
	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31			
		⑦	⑦	⑦	⑦			

	日	月	火	水	木	金	土	備考
						11/1	11/2	11/1:授業実施日
						⑦		
	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9	11/4:授業実施日
		⑧	⑧	⑧	⑧	⑧		
11月	11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16	
		⑨	⑨	⑨	⑨	⑨		
	11/17	11/18	11/19	11/20	11/21	11/22	11/23	
		⑩	⑩	⑩	⑩	⑩		
	11/24	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29	11/30	
		⑪	⑪	⑪	⑪	⑪		

	日	月	火	水	木	金	土	備考
	12/1	12/2	12/3	12/4	12/5	12/6	12/7	
		⑫	⑫	⑫	⑫	⑫		
	12/8	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13	12/14	
		⑬	⑬	⑬	⑬	⑬		
12月	12/15	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20	12/21	
		⑭	⑭	⑭	⑭	⑭		
	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	
		⑮						
	12/29	12/30	12/31					

2024年度　授業スケジュール

【後期】授業スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土	備考
1月				1/1	1/2	1/3	1/4	
	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	
			⑮	⑮	⑮	⑮		
	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	
		－	補講期間					
	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	
		後期試験						
	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31		

	日	月	火	水	木	金	土	備考
2月							2/1	
	2/2	2/3	2/4	2/5	2/6	2/7	2/8	
	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15	
		後期追再試験						
	2/16	2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	
	2/23	2/24	2/25	2/26	2/27	2/28		

	日	月	火	水	木	金	土	備考
3月							3/1	
	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	
	3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	
							卒業式	
	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	3/21	3/22	
	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	
	3/30	3/31						

前　期

	日	月	火	水	木	金	土	行 事日	保健医療学部	看護学科	リハビリ学科
4 月	24	25	26	27	28	29	30	3月25日～	在学生　履修登録 7日（日）まで	（ガイダンス） 25日（月）　午後　新2年次生 26日（火）　午前　新3年次生 午後　新4年次生	25日（月）～　新2～4年次（履修登録）
	31	1	2	3	4	5	6	【1年次生】			
	7	8	9	10	11	12	13	3日(水)	入学式		
	14	15	16	17	18	19	20	4日(木)	履修登録　新入生学内研修		4月8日（月）～5月31日（金） 4年次　総合臨床実習Ⅰ（4年次生） ※ 4/8事前セミナー、5/31事後セミナー
	21 OC	22	23	24	25	26	27	5日(金)	履修登録　新入生学内研修		
	28	29	30					【全年次生】			
								6日(土)	不開講／抽選決定→不開講科目登録学生と抽選に漏れた学生の履修登録変更		
								6日(土)	健康診断　1・4年次生		
								8日(月)	前期授業開始		
								12日(金)	まで選択科目履修変更期間		
								15日（月）	まで教科書販売（仮）		
								20日(土)	健康診断　2・３年次生		
								29日(月)	授業実施日		
5 月				1	2	3	4				
	5	6	7	8	9	10	11				
	12	13	14	15	16	17	18	17日(金)	まで履修取消期間		
	19	20	21	22	23	24	25				
	26	27	28	29	30	31					
6 月							1				1日（土）保証人個別懇談会
	2 OC	3	4	5	6	7	8			8日（土） 保証人個別懇談会	
	9	10	11	12	13	14	15			10日（月）?～8月9日（金）？　統合看護実習（4年次生）	10日（月）～8月2日（金） 総合臨床実習Ⅱ（4年次生） ※ 6/10事前セミナー、8/2事後セミナー
	16 OC	17	18	19	20	21	22				
	23	24	25	26	27	28	29				
7 月		1	2	3	4	5	6			統合看護実習（4年次生）	
	7 OC	8	9	10	11	12	13				
	14	15	16	17	18	19	20	15日(月)	授業実施日		
	21 OC	22	23	24	25	26	27	27日(土)	前期授業終了		
	28	29	30	31				23日（火）～25日（木）	補講期間		
								29日（月）～8月2日（金）	前期定期試験		

	日	月	火	水	木	金	土	行 事日	保健医療学部	看護学科	リハビリ学科
8 月					1	2	3	5日（月）～9月15日（日）	夏期休業	～8月9日　統合看護実習（4年次生）	
	4 OC	5	6	7	8	9	10	5日（月）6日（火）	前期追試験手続き （集中講義）8月上旬3日間、キャリアディベロップメントⅠ，　8月6日（火）～8日（木)異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	8月5日（月）～9日（祝・金） 基礎看護学実習Ⅰ（1年次生）※9日学内実習	
	11	12	13	14	15	16	17 OC	8日(木)	前期再試験対象者発表	8月13日（火）～19日（月） 基礎看護学実習Ⅰ（1年次生）※19日学内実習	
	18 OC	19	20	21	22	23	24	8日（木）9日（金）16日（金）	前期再試験手続き		
	25	26	27	28	29	30	31	19日（月）～23日（金）	前期追・再試験		8月26日（月）～8月30日（金） 検査・測定実習（作業療法専攻3年次生）
								29日(木)	成績発表		
9 月	1	2	3	4	5	6	7	2日（月）～10日（火）	履修登録		9月2日（月）～ 6日（金）　理学療法見学実習Ⅰ（1年次生）
	8 OC	9	10	11	12	13	14	9日（月）～15日（日）	履修登録確認期間 ※11日　不開講／抽選決定→不開講科目登録学生と抽選に漏れた学生の履修登録変更	9月2日（月）～　領域実習（～3月7日）（3年次生）	9月2日（月）～6日（金）　地域作業療法実習（2年次生） 9月9日（月）～13日（金）理学療法見学実習Ⅱ（1年次生）
	15							13日(金)	(前期卒業式)		9月2日（月）～6日（金）もしくは9月9日（月）～13日（金）うち1週間　理学療法見学実習Ⅲ（2年次生）

後　期

	日	月	火	水	木	金	土	行 事日	行事内容	看護学科	リハビリ学科
9 月	15	16	17	18	19	20	21 入試	16日(月)	後期授業開始（授業日）		
	22	23	24	25	26	27	28	16日（月）～20日（金）	選択科目履修登録変更期間		
	29	30						23日(月)	授業実施日、教科書販売最終日（仮）		
10月			1	2	3	4	5				
	6	7	8	9	10	11	12				
	13	14	15	16	17	18	19	14日(月)	授業実施日		
	20	21	22	23	24	25	26 入試	18日(金)	まで履修取消期間		
	27	28	29	30	31			20日(日)	大学祭		
11月						1	2	1日(金)	創立記念日　授業実施日		
	3	4	5	6	7	8	9	4日(月)	授業実施日		
	10	11	12	13	14	15	16				
	17 入試	18	19	20	21	22	23				
	24 入試	25	26	27	28	29	30 入試				

	日	月	火	水	木	金	土	行 事日	保健医療学部	看護学科	リハビリ学科
12月	1	2	3	4	5	6	7			7日（土）　4年次生最終授業日	
	8	9	10	11	12	13	14 入試			9日（月）～12日（木）　試験期間（4年次生）	
	15	16	17	18	19	20	21			16日（月）再試験対象者発表（4年次生） 17日（火）18日（水）　追再手続き（4年次生） 19日（木）追再試験（4年次生）	
	22	23	24	25	26	27	28	23日(月)	年内授業最終日		
	29	30	31					24日（金）～１月6日（月）	冬期休業 （集中講義）12月下旬3日間 キャリアデザインⅡ	17日（火）～28日（土）　基礎看護学実習Ⅱ(2年次生) ※ 17日、27日、 28日学内実習 （集中講義）生化学24日、25日（1年次生）	
１月				1	2	3	4	7日（火） 11日（土） 14日（火）～16日（木） 17日（金） 18日（土）～19日（日）	年明け授業開始 後期授業終了 補講期間 大学入学共通テスト準備（入構禁止） 大学入学共通テスト（全日休講・入構禁止）		
	5	6	7	8	9	10	11				
	12	13	14	15	16	17	18				
	19	20	21	22	23	24	25 入試	20日（月）～24日（金）	後期定期試験		
	26 入試	27	28	29	30	31		27日（月）～3月31日（土）	春期休業（集中講義）1月27日～29日行動の科学 、1月下旬3日間　キャリアディベロップメントⅡ	27日（月）～2月7日（金）　基礎看護学実習Ⅱ(2年次生) ※27日、2月6,7日学内実習	
								27日（月）28日（火）	後期追試験手続き		
２月							1	3日(月)	後期再試験対象者発表		
	2	3	4	5	6	7	8	4日（火）～6日（木）	後期再試験手続き		
	9	10	11	12	13	14	15 入試	10日（月）～14日（金）	後期追試験・再試験		10日（月）、11日（火）　後期追試験・再試験（4年次生） 2月17日（月）～2月28日（金）作業療法見学実習（1年次生）
	16	17	18	19	20	21	22			17日（月）～3月1日（土）　基礎看護学実習Ⅱ(2年次生) ※2月17日、2月28日、3月1日学内実習	2月17日（月）～3月7日（金）　評価実習（3年次生） ※ 2/17事前セミナー、3/7事後セミナー
	23	24	25	26	27	28		25日(火)	成績発表		
３月							1			～3月7日（金）　領域実習（3年次生）	
	2	3	4	5	6	7	8 入試				
	9	10	11	12	13	14	15	15日(土)	卒業証書・学位記授与式		
	16	17	18	19	20	21	22				
	23	24	25	26	27	28	29	27日(木)	以降　在学生　履修登録	（ガイダンス） 27日（木）　午後　新2年次生 28日（金）　午前　新3年次生 午後　新4年次生	27日（木）　新2～4年次（各自履修登録）
	30	31									

目　　次

建学の精神 1

教育理念 1

保健医療学部の教育目的 1

奈良学園大学 教育のポリシー
1. アドミッション・ポリシー 2
2. ディプロマ・ポリシー 2

Ⅰ 履修要項（2学科共通）

1. 大学の授業

（1） 教育課程（カリキュラム） 3
（2） 単位制 3
（3） 単位数と学修時間 3

2. 履修登録

（1） 履修登録 4
（2） 履修制限 5
（3） 履修登録制限 5
（4） 不開講科目 5
（5） 履修登録の変更・取消 5

3. 授　業

（1） 開講期間 6
（2） 授業時間 6
（3） 休講・補講 6
（4） 臨時休講、緊急時対応 7
（5） 出席・欠席について 7
（6） 公欠について 8
（7） 感染症にかかった場合の取り扱い 10

4.　成績評価
（1）　定期試験 11
●定期試験の流れ
〈1〉試験日程・教室発表 11
〈2〉試験当日 11
（2）　論文（レポート）試験 12
（3）　**不正行為**（カンニング） 12
（4）　追・再試験について 13
（5）　**成績評価、単位認定** 15

5.他大学等で修得した単位の認定について… 16

6. 卒業の要件 16

7. GPA制度 17

資料【公欠に関する申し合わせ】 19
資料【定期試験時の不正行為に関する申し合わせ】 22
資料【入学前既修得単位認定細則】 24
資料【GPA制度に関する規程】 25
資料【学生履修登録マニュアル】※Active Academyでの登録 27

建　学　の　精　神

高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有する有能な人材を教育・養成し、地域社会及び社会全体の発達・発展に貢献する。

教　育　理　念

現実に立脚した学術の研究と教育を通じて、明日の社会を開く学識と実務能力を兼ね備えた指導的人材の育成を目指し、時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をつちかい、誠実にして協調性のある心身ともに豊かでたくましい実践力を持った人材を養成する。

保健医療学部の教育目的

幅広い教養と豊かな人間性、国際性、変化に対応できる汎用的能力など確かな学士力をそなえ、「人」を中心に据えた専門的知識と高度な技術、創造力、実践力、倫理性、協調性などを身につけた質の高い保健医療職者を育成することを目的とする。

奈良学園大学　教育のポリシー

(1)学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

奈良学園大学は、高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有し、地域社会及び社会全体の発達・発展に貢献できる人材を育成するため、学士課程に定める所定の単位を修得し、以下のような「実践力」を身につけた学生に、学位を授与します。

1. 高度な学識と実務能力に基く実践力
2. 時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をもつ実践力
3. 社会に貢献することのできる実践力

(2)教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

奈良学園大学は、ディプロマ・ポリシーに掲げる高度な知識・技能などを修得させるため、共通教育科目と各分野の専門科目を設け、これらを段階的に学べるよう科目を配します。

1. 4学年8セメスターに分け、段階的に知識・技能などを修得できるよう科目を配します。
2. 教養や社会人としての基礎的・汎用的能力を身につけ、専門学術知識に裏付けられた実践力を修得するための授業科目を体系的に編成します。
3. 高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を育むため、講義・演習・実験・実習など多様な授業形態を組み合わせた授業を行います。

(3)入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

奈良学園大学は、高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有し、地域社会及び社会全体の発達・発展に貢献できる人材を育成するため、次に掲げる人を受け入れます。

1. 大学教育を受けるに相応しい基礎能力や体験を備え、本学での教育を通じて社会人としての一層の成長が期待できる人
2. 実践を重視した演習課題に、積極的にとりくむ意欲のある人
3. 地域社会との交流に関心を持ち、将来、社会全体の発達・発展に貢献する事に使命感を持つ人

各学科のポリシーについては、本学HPを参照のこと
http://www.naragakuen-u.jp/introduction/ed_policy.html

1.　大学の授業

⑴　教育課程(カリキュラム)

大学において開設される授業科目は、学部・学科の専門に関する科目と、幅広く深い教養を培う科目に分類されます。これらの授業科目を履修区分ごと(必修科目・選択科目)に分けたり各年次に配当したり、一週間あたりの時間数を決めたりするなどして編成されたものを教育課程(カリキュラム)といいます。

① 学期
1年を2つの時期に分けています。
前期；4月1日～9月中旬
後期；9月中旬～3月31日

② 授業時間
1限目；9:00～10:30
2限目：10:40～12:10
3限目；13:00～14:30
4限目；14:40～16:10
5限目；16:20～17:50

⑵　単位制

「単位」とは、学修に要する時間を表す基準です。

本学で開講している各授業科目には、それぞれに「単位数」が定められています。

各授業科目を履修し、その成績が合格点(60　点以上)であれば、設定された単位数の学修ができたと認定され、その科目の単位を修得できたことになります。

修得した単位数の履修区分ごとの合計が卒業に必要な単位数を満たし、かつ、在学期間が4　年以上となった時点で卒業することができます。

⑶　単位数と授業形態

単位数については、文部科学省の省令である大学設置基準によって、45 時間の学修を必要とする内容をもって 1 単位と定められています。ここで言う学修とは、授業時間に加えて、予習・復習及び研究等のための自学自習の時間を含みます。

以下に学修の典型的なパターンのいくつかを示します。

【1単位に必要な学修時間】

	必要な学修時間	授業時間	自学自習時間
クォーター科目	45時間	2時間×7.5回＝15時間	30時間以上
半期1単位科目	45時間	2時間×15回＝30時間	15時間以上
半期2単位科目	90時間 (1単位45時間×2)	2時間×15回＝30時間	60時間以上
通年4単位科目	180時間 (1単位45時間×4)	2時間×30回＝60時間	120時間以上

2.　履修登録

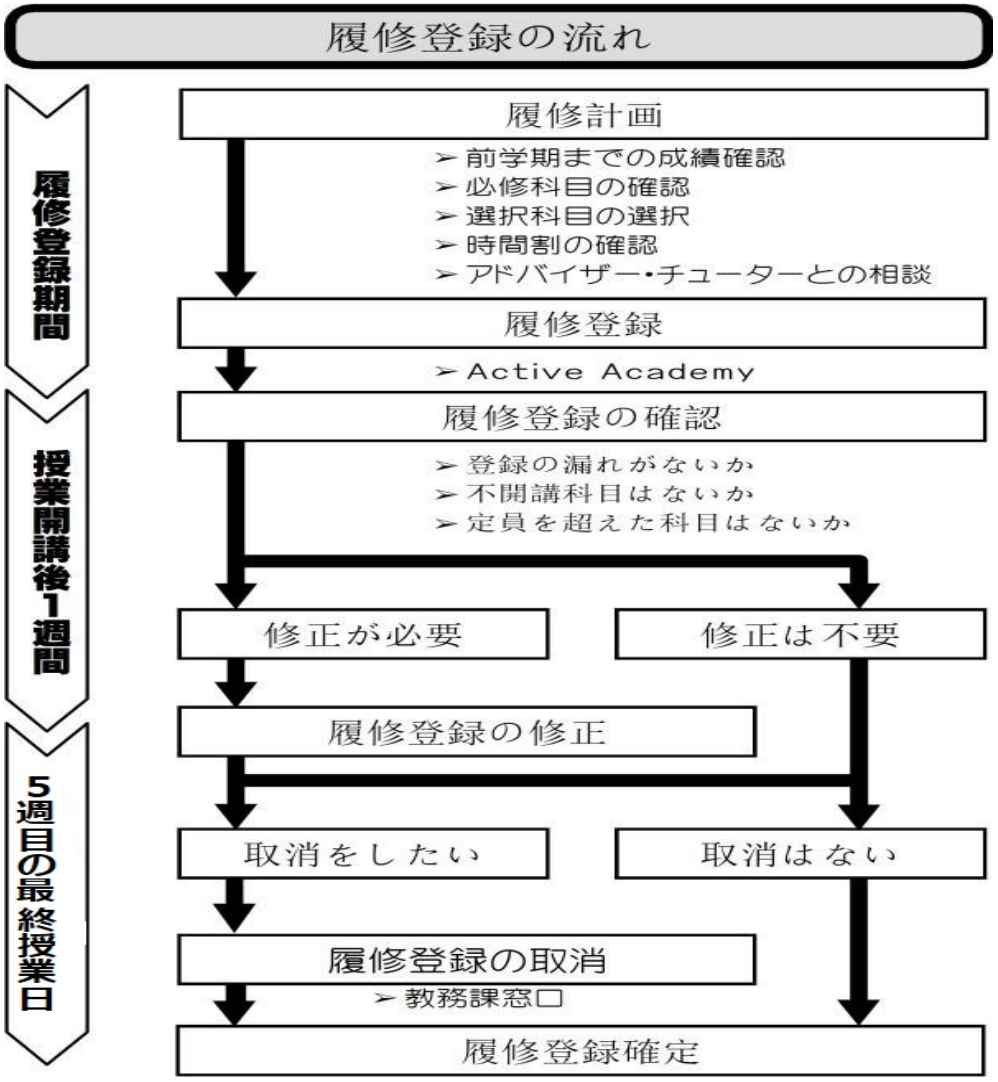
⑴　履修登録（p.27 マニュアル参照）

大学では、授業を受講するにあたって、履修登録期間内に履修登録をしなければなりません。履修登録をしていない科目を受講しても単位は修得できません。履修登録にあたっては、各自の履修計画に基づいて十分に検討してください。

【履修計画の注意点】

・「履修の手引」をよく読み、履修のルール（履修方法や履修規程）をよく知ること。
・「シラバス」をよく読み、授業の内容や概要をつかむこと。
・将来の目標に合わせて、必要な授業科目を選択すること。
・アドバイザー・チューターとの面談には必ず出席すること。
・成績発表後、修学ポートフォリオの「成績表」を確認し、結果をふまえて履修計画を立てること。
・必修科目は必ず登録すること。前年度の必修科目が修得できなかった場合は再履修すること。
・選択科目についてもそれぞれの履修区分や単位修得条件について注意すること。必修科目ではないからといって安易に履修放棄しないこと。
・卒業必要単位数ギリギリで履修するのではなく、余裕ある履修計画を行うこと。

⑵　履修の流れ



⑶　履修制限

1単位の授業科目は45時間の学習を必要とする内容をもって構成されており、授業時間に加え、自学自習の時間を含んでいることから、一定期間に受講できる授業科目の数は限られています。したがって、履修登録した科目の適切な学修時間確保のため、1 年間に履修できる単位数には上限(CAP)があります。

〇履修上限の緩和(2023 年度入学生以降)

2年次生以上で、前年度 40 単位以上を 修得し、前年度 GPA が 3.000 以上の者については、各学科履修規程に定める履修制限を 2 単位緩和します。

1年次生で、前期 20 単位以上を修得し前期 GPA の値が 3.000 以上の者については、各学科履修規程に定める履修制限を当該年度 2 単位緩和します。

■履修制限単位数

学科	入学年度	履修制限単位数
人間教育学科	2014～2024年度	年間48単位
看護学科	2018～2024年度	年間48単位
	2014～2017年度	年間45単位
リハビリテーション学科	2019～2024年度	年間48単位

⑷　履修登録者数制限

選択科目では履修登録者数制限(受講人数の制限)を行う場合があります。その場合は履修登録期間もしくは、履修登録確認期間に抽選となる場合があります。抽選の結果、当選した科目の取消はできません。

⑸　不開講科目

履修登録期間終了時に登録者が0名の科目は、開講されません。また、履修登録確認期間中に、その科目に変更(登録)することはできません。

⑹　履修登録の変更・取消

① 変更・取消したい場合

「履修登録確認期間」内に、各自で Active　Academy にアクセスし、変更してください。

期間を過ぎての変更や取り消しはできません。また、履修登録制限科目で登録者が定員に達した科目や不開講科目への変更もできません。変更前に出席していなかった回については、欠席扱いとなります。

② 登録確定後に取消したい場合

前期・後期ともに、5週目の授業最終日(16時30分　※土曜日は13時まで)に大学事務室(教務課)で申請してください。ただし、理由によっては認められない場合もあります。

※クォーター科目(8回で終了する科目)の場合は3回目

3.　授業

原則として、休講、補講、教室変更等の連絡はActiveAcademyで行います。
必ず確認してください。

⑴　開講期間

それぞれの科目は、開講される期間で「通年科目」「半期(セメスター)科目」「クォーター科目」「集中科目」に分かれます。

科目	内容
通年科目	1年間で授業を修了する科目
半期科目	前期、または後期のいずれか半期で授業を修了する科目
クォーター科目	8回で終了する科目
集中科目	夏季・冬季休業期間中等、短期間に集中して授業を行う科目

⑵　授業時間

1 回の授業時間は 90 分です。

通常、月曜日～金曜日は1～5時限で、土曜日は1～2時限で授業を行います。ただし、集中講義や補講などでこれ以外の時間帯にも授業を行う場合があります。Active Academy で確認してください。

【校時表】

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

⑶　休講・補講

◆休講について

大学の事情（入学試験等）や担当教員のやむを得ない理由（病気、出張等）により、休講になることがあります。

休講通知は、原則として 1 週間前にActive Academy にてお知らせします。ただし、急な事情のときは、やむを得ず当日にお知らせすることもありますので、登下校時には必ず Active Academy を確認するようにしてください。

◆補講について

休講によって授業時間数が規定に満たない場合は、必ず補講を行います。補講の日時・教室は、Active Academy でお知らせします。

⑷　臨時休講、緊急時対応

下記のア～ウの場合は、臨時休講となります。各自で情報を的確に収集し、以下の定めに従って行動してください。その際、大学への連絡は不要ですが、後日、教務課で必要な手続きをしてください。

ア.交通機関ストライキの場合

鉄道会社	対象になる路線
近鉄	全線

上記に示す交通機関がストライキを行った場合、次の時限が休講となります。
①午前7時の時点で実施されている場合:午前の授業(1・2時限)を休講とする。
②午前10時の時点で実施されている場合:午後の授業(3・4・5・6時限)を休講とする。

イ.気象警報が発表された場合

対象となる地域	対象となる気象警報の種類
奈良県北西部又は大阪府	特別警報・暴風警報(大雨洪水警報は対象外)

上記に示す警報が発令された場合、次の時限が休講となります。
①午前7時の時点で発表されている場合:午前の授業(1・2時限)を休講とする。
②午前10時の時点で発表されている場合:午後の授業(3・4・5・6時限)を休講とする。
※通学途中に、通学が危険かつ困難となった場合は、各自の判断で危険等を回避し、のちに教務課に届け出てください。

ウ. 公共交通手段が計画運休を発表した場合

下記①あるいは②の場合、臨時休講となります。
①近鉄のけいはんな線、奈良線のいずれかで計画運休を実施する場合
②奈良・大阪・京都のJR、近鉄(京都線・大阪線・生駒線のいずれか)、南海、京阪、阪急、大阪市高速電気軌道(OsakaMetro)のうち、4社以上が計画運休を実施する場合

⑸　出席・欠席について

◆出席について

単位を修得するためには、履修登録した科目への毎時間の出席が必要です。

授業回数の 3 分の 2 以上(保健医療学部の実習は5分の4以上)の出席がない場合は評価の対象となりません。

◆ 遅刻・早退について

遅刻及び早退について、原則として、20 分未満の場合は 3 分の 1 回の欠席扱いとし、20 分以上の場合は 1 回の欠席扱いとします。

◆ 欠席について

次の(6)(7)のような、やむを得ない理由で授業を公欠する場合は、大学事務室(教務課、学生支援センター、キャリアセンター)へ申し出て「公欠届」、「公欠願」及び「欠席届」の手続きを行ってください。授業における出欠の取り扱いは各科目の担当教員に委ねられます。

⑹　公欠等について

下表に従って手続きをしてください。

なお、公欠届または公欠願は登学次第、速やかに提出し、許可を得て、当該授業科目担当教員に提出してください。「公欠願」が認められるのは、1 科目につき、原則３ 回までです。

欠席理由	種類	必要書類等	手続先
忌引 〔父母（養父母を含む）・祖父母・実兄弟または実姉妹〕	公欠届 (忌引)	公的証明書（写し可）と印鑑 〔父母（養父母を含む）３日以内・祖父母1日以内・実兄弟または実姉妹２日以内〕	教務課
感染症 （学校保健安全法施行規則第18条に規定）	公欠届 (感染症)	学校感染症治癒証明書 ［書式は本学ホームページからダウンロード］	学生支援センター
交通機関の事故・ストライキ等	公欠届 (交通)	遅延証明書等と印鑑	教務課
災害等	公欠届 (災害等)	官公庁による被災証明書と印鑑	教務課
実習	公欠届 (実習関係)	印鑑	教務課
単位互換協定大学等の試験	公欠届 (単位互換)	印鑑	教務課
国または都道府県を代表して、諸行事に参加	公欠届 (特別)	印鑑	教務課
警報発表に基づく欠席	公欠届	通学証明書・遅延証明書等と印鑑	教務課
本学課外活動において学長が認めた公式試合及び行事等に参加（注1）	公欠願	事前に学生支援センターに届け出ておくこと （同好会は対象外）	学生支援センター
本学が認めるボランティア活動に参加 （注1）	公欠願	印鑑	学生支援センター
就職試験等を受験	公欠願	企業が発行した就職試験を証明するもの	キャリアセンター
病気・怪我等による1週間以上の長期欠席	欠席届	医師の診断書と印鑑	教務課

（注　1）実習期間中の公欠願は認めません。

※　保健医療学部は就職試験欠席配慮届

公欠手続きの流れ（例）

A. 忌引、交通機関の事故等で欠席した

B. 感染症のため欠席した

↓

公欠届手続

- 教務課
- 各種証明書
  印鑑が必要

- 学生支援センター
- 治癒証明書が必要

公欠届を科目担当教員に提出

C. 課外活動、ボランティア等で欠席した

↓

公欠願手続

- 学生支援センター
- 大学が事前に認めた活動に限る
- 実習期間中は認められない

公欠願を科目担当教員に提出

- 1科目３回まで

人間教育学部
D. 就職活動等で欠席した

↓

公欠願手続

- キャリアセンター
- 就職試験に限る
- 実習期間中は認められない

公欠願を科目担当教員に提出

- 1科目３回まで

保健医療学部
D. 就職試験等で欠席した

↓

就職試験欠席配慮願

- １週間前までにキャリアセンターへ申し出る

就職試験欠席配慮願を科目担当教員に提出

⑺　感染症にかかった場合の取り扱い

学校において予防すべき感染症（第2種）の種類と出席停止期間の基準が決まっています。（学校保健安全法施行規則第 18 条･第 19 条）これらの感染症にかかった場合は、以下の手続をしてください。

分類	感染症名	出席停止期間の基準
第二種	新型コロナウイルス感染症 他	発症した日を 0日として5日を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過するまで
	インフルエンザ	発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適切な抗菌療法が終了するまで
	麻疹（はしか）	解熱後3日を経過するまで
	風疹	発疹が消失するまで
	水痘（みずぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
	流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核	感染のおそれがないと認められるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	感染のおそれがないと認められるまで
第三種	腸管出血性大腸菌感染症 他	医師において感染のおそれがないと認められるまで

※出席停止の期間は、学校医、その他の医師において、感染のおそれがないと認めたときは、この限りではありません。

①医療機関で感染症と診断されたときは、必ずｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰと学生支援センターに連絡してください。

②出席停止期間は、医師の指示に従って療養し、他者との接触は避けてください。
また、医師から感染の恐れがないと診断されたら、医師に「治癒証明書」（大学ホームページ「在学生の方へ」のページにあります）を記入してもらい、学生支援センターに提出してください。

4.　成績評価

成績評価の方法として、定期試験、論文（レポート）試験、実技試験等を実施します。なお、この他に科目担当教員の判断で小テスト等の臨時試験を行う場合もあります。

詳しくはそれぞれの科目のシラバスで確認してください。

⑴　定期試験

定期試験とは期間を定めて行う試験のことであり、試験期間は原則として以下のとおりです。

・前期試験　7月末～8月初め

・後期試験 1月下旬　（※保健医療学部4年次生は12月中旬）

試験期間は毎年度、学年暦・行事予定で確認してください。

●定期試験の流れ

〈1〉試験日程・教室発表

試験の 1 週間前までに Active　Academy で発表します。

※講義や演習科目は 3 分の 2 以上(保健医療学部の実習は 5 分の 4 以上)の出席がない場合は評価の対象となりません。試験を受けられない学生は科目担当教員から直接通知される場合があります。

〈2〉試験当日

次の場合は試験を受けることができませんので注意してください。

①履修登録をしていない授業科目。

②試験開始時刻から 20 分以上遅刻したとき。

※出席時間数が不足しているため規程により再履修になる場合は、定期試験を受験しても評価されません。

◆受験上の注意事項

・学生証を机の上に置いて試験を受けること。
　（忘れた場合は証明書自動発行システムで仮学生証を発行してください）
　<u>※仮学生証は発行当日のみ有効、年間10枚まで発行（1枚100円）</u>

・学生証、筆記用具、時計等の許可された物品以外は、全てかばんの中に入れる。

・許可された物以外のものが机上または机の中にある時は、不正行為とみなす場合がある。また、試験開始後の物品の貸借は認めない。

・携帯電話は必ず電源を切り、かばん等の中に入れる。

・試験開始時後20分が経過した場合は入室することができない。
　また、試験開始後30分が経過するまで退室することはできない。

・質問がある時は、手を挙げて試験監督者に知らせる。

・解答用紙を試験場外に持ち出した場合は、当該試験を無効とする。

⑵　論文(レポート)試験

授業科目によっては、論文（レポート）試験や実技試験等によって成績評価を行う場合があります。提出期限や条件等は厳格に守ってください。なお、論文（レポート）試験や実技試験は、科目担当教員が

直接授業中に説明する場合と、Active Academy を通して連絡する場合があります。また、試験とは別に、レポート課題が課せられることがあります。

提出期限	指定された提出期日・時刻は厳守すること。締 切後の提出は一切、受付できません。
提 出 先	指定された方法で提出すること。 （指定された提出先以外では受付できません）
受付時間	◎平日　8:30～16:30 ◎土曜　8:30～13:00 Active　Academy等オンラインで提出の場合はこの限りではありません。 また、上記時間内でも特に科目担当教員の締切時刻がある場合は、その締切時刻以降は一切受付できません。

⑶　不正行為（カンニング）

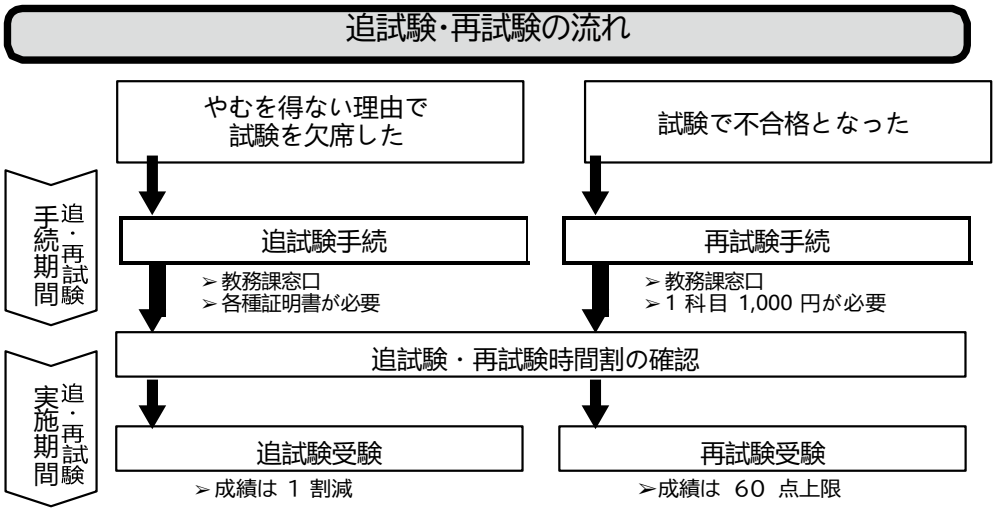
次の行為は、不正行為とみなします。

- 持込みを許可されていない物品を使用したり参照したりすること。
- 物品の貸借をすること。
- 他人に受験させ、または他人の代わりに受験すること。
- 他人の答案をのぞき見すること、または故意に見せること。
- 答案用紙を交換すること。
- 他の受験者と私語をすること。
- 盗用、剽窃、代筆を行う、又はさせること。
- 試験監督者の指示に従わないこと。
- その他不正行為を疑われるような行為をすること。

不正行為をした者については、当該学期に履修登録した演習科目・実技科目をのぞく全授業科目の単位を無効とします。

⑷　追･再試験

学年暦･行事予定を参照のうえ、各自で追･再試験の受験手続きが必要か判断してください。追･再試験日程は Active Academy で発表します。



◆追試験

追試験とは、【追試験対象事由】のようなやむを得ない理由によって、成績評価に該当する試験を未受験の学生に対して、定期試験期間後に実施する試験のことをいいます。

・目的

【追試験対象事由】のようなやむを得ない理由によって、成績評価に該当する試験を未受験の学生に対して、定期試験期間後に実施する試験のことをいいます。

・追試験を許可される科目

【追試験対象事由】のようなやむを得ない理由によって、成績評価に該当する試験を未受験となった科目。

・受験手続き

①受験希望者は期日内に必要な証明書を添えて「追試験願」を教務課に提出してください。

②追試験料は不要です。

③追試験時間割はActiveAcademyにより発表します。

【追試験対象事由】

欠 席 理 由	証 明 書	備考
疾病等(病気・怪我等)	医師の診断書	自身が病気、怪我等で入院・加療が必要な場合に限ります。
忌引	公的証明書(写し可)と印鑑	父母(養父母を含む)3日以内祖 父母1日以内 実兄弟姉妹2日以内 法事による欠席は認めません。
就職試験等を受験	企業等が発行した就職試験受験を証明するもの	会社訪問、セミナー、研修等は認めません。
交通障害	遅延証明書・事故証明書	20分以内の遅延は認めません。 バイク、マイカー使用に起因する交通事故及び交通渋滞による遅刻は認めません。
災害 (地震・台風・火災・水害等)	官公庁による被災証明書	本人又は家族の居住地が被災した場合に限ります。
その他(本人の不注意によらない理由であること)	公的な証明書	事前に判明している場合は、教務課に問い合わせてください。 資格試験等は認められません。

◆再試験

再試験とは、成績評価の合格点に達していない学生に対してのみ実施することがあります。再試験の機会設定の有無は、科目担当教員が設定します。

・目的

成績評価が不可となった科目について、定期試験期間後に実施する試験のことをいいます。

・再試験を許可される科目

成績評価が不可となった科目で、当該科目に再試験が設定されており、かつ、担当教員が受験を認めた科目。

再試験前には、補習が行なわれることがあります。

・受験手続き

①受験希望者は期日内に証明書発行機にて「再試験願」を発行し、教務課に提出してください。

②再試験料は1科目1,000円です。

③再試験時間割はActiveAcademyにより発表します。

⑸　成績評価、単位認定

①成績について

成績は、下表のように 5 段階で表されます。
なお、履修した科目の成績評価は科目担当教員の定める評価基準により行われます。詳細はシラバスで確認してください。

点数	評価	成績証明書の記載	単位
90点～100点	秀	秀	単位認定（修得）
80点～89点	優	優	
70点～79点	良	良	
60点～69点	可	可	
0点～59点	不可	表示しない	単位不認定（未修得）

②成績発表

学期末の成績発表は、学期末（前期末および後期末）に ActiveAcademy で発表します。成績発表の日程については、学年暦で確認してください。保護者には学期末（前期末および後期末）に自宅へ成績通知書（成績・履修状況一覧表）を郵送します。

成績に関する問い合わせについて

成績に関する問い合わせは、成績発表後、2週間以内に教務課に申し出て、「成績評価問い合わせ票」に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。
電話やメールでの問い合わせは受け付けません。

5.　他大学等で修得した単位の認定について

本学に入学する前に他の大学・短期大学および高等専門学校の専攻科等で修得した単位のうち、本学で開講している授業科目と内容が同等であるものについて、本学において修得した単位として認定しています。

単位が認定された科目は、60　単位を上限として卒業要件等に算入することができます。ただし、成績評価は通常の「秀」「優」「良」「可」ではなく、「認定」となります。

入学前修得単位認定の申請期日は、入学年度の　４月２２日です。手続きの詳細は、教務課に問い合わせてください。

●申請に必要な書類

1)既修得単位認定申請書(教務課窓口に所定の様式があります)

2)在籍していた他大学等の成績証明書

3)認定を受けようとする授業科目の講義概要(シラバス)の写し

6.　卒業の要件

卒業するためには次の要件を満たす必要があります。

・休学期間を除き4年以上の在学期間があること。

・履修規定に定められた卒業に必要な科目を履修し単位を修得していること。

※卒業に必要な科目及び単位数については、各学科「履修の手引」の該当ページを参照してください。

学科・専攻		入学年度	学科のページ
人間教育学科	人間教育学専攻	2018～2022年度	p.
	中等(数学・音楽)専攻	2018～2022年度	p.
看護学科		2018～2022年度	p.
リハビリテーション学科		2023年度以降	p. 1

7.　GPA制度

⑴　GPA制度導入の趣旨

本学では成績評価に加えて、GPA（Grade　Point　Average）を導入しています。

GPA とは成績評価方法の１ つで、履修科目の成績の平均を数値化したものです。また、ただ単位を修得すればいいということではなく、その質（成績の評価）も重要となるため、学生の皆さんが自主的･意欲的に学修し、自分の学修成果を正確に把握して、計画的な履修ができるよう制度を設けています。

⑵　GPAの算出方法

履修登録科目のうち GPA　対象科目について、各科目の成績評価（秀･優･良･可･不可）に応じて ５ 段階（４、３、２、1、０）に分けて数値化した評価点（Grade Point）にその科目の単位数を掛けたものを合計し、履修登録科目の総単位数で割ることにより算出します。(小数第4位を四捨五入)

$$\text{GPA} = \frac{\text{【（ 対象科目の単位数 ）×（ その科目の GP ）】 の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計}}$$

⑶　GPAの算定基準

判定	得点	評価	評価点(GP)
合 格	100～90点	秀	４
	89～80点	優	３
	79～70点	良	２
	69～60点	可	1
不合格	０～59点	不可	０
その他	他大学等で修得し、 本学で認定された単位	認定	－

⑷　GPAの算出例

授業科目名	単位数	成績	評価点（GP）	単位数×評価点
言葉の理解	2	秀	4	8
教育原理A（初等）	2	優	3	6
現代教育論	2	良	2	4
スポーツ実技Ⅰ	1	可	1	1
情報機器の操作	2	不可	0	0
合計	9			19
	［単位数×評価点（GP）の合計］÷［単位数の合計］ ＝　19　÷９　＝　2.111　　（※　小数第4位を四捨五入）			

⑸　GPAの確認方法

GPA は Active Academy 上で確認できます。GPA 値には、学期 GPA、年度 GPA、累積 GPA があり、学期 GPA は当該学期の GPA 値を、年度 GPA は当該年度の GPA 値を、累積 GPA は通算した GPA 値を示します。

各年次の GPA など詳細は自宅へ送付する「成績・履修状況一覧表」にも記載されます。

8.　オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が指定した曜日・時間帯に学生が自由に研究室を訪れ、授業内容・学修上の問題等について質問や相談ができる制度です。

各教員が指定した曜日・時間帯は、新学期当初に掲示します。授業科目担当の教員を始め、多くの教員に、授業や学生生活に関することなどを相談してください。なお、相談に際してはマナーを心がけ、有効に活用してください。

奈良学園大学公欠に関する申し合わせ

（制　　定　平成２０年　８月２２日
最近改正　平成３０年　４月　１日）

（定義）

第１条　奈良学園大学（以下「本学」という。）において、公欠は、「公欠届」及び「公欠願」に分けて、次の通り定義する。

（公欠届）

第２条　公欠届の適用は、次の各号に掲げる場合とし、手続きを行った者に対して、当該授業を欠席したものとして取扱わないものとする。

(1) 父母（養父母を含む)、祖父母、実兄弟または実姉妹が死亡したとき
(2) 学校保健安全法施行規則第１８条に規定された感染症に感染したとき
(3) 交通機関の事故・ストライキ等により登学が不能もしくは遅延したとき
(4) 災害等により被災したとき
(5) 実習及び実習に係る事前訪問で、学部長が許可するとき
(6) 単位互換協定大学等の試験を受けるとき
(7) 国または都道府県を代表して、諸行事に参加するとき
(8) その他特別の事由により学長または学部長が許可するとき

（公欠願）

第３条　公欠願の適用は、次の各号に掲げる場合とし、手続きを行った者に対して、原則３回まで、当該授業を欠席したものとして取扱わないものとする。

(1) 本学課外活動において学長が認めた公式試合及び行事等に参加するとき
(2) 本学が認めるボランティア活動に参加するとき
(3) 就職試験等を受験するとき（説明会、ガイダンス等は含まない）
(4) その他特別の事由により学長または学部長が許可するとき

（期間）

第４条　公欠を許可する期間は、次のとおりとする。

(1) 父母（養父母を含む）が死亡したときは３日以内、祖父母のときは１日以内、実兄弟または実姉妹のときは２日以内
(2) 第２条第２号のときは、学校保健安全法施行規則第１９条に規定された期間
(3) その他の時は、原則その当日

２　遠隔地のとき、その他特別の事由のあるときは、前項第１号または第３号の日数に必要日数を加えることができる。

（手続き）

第５条　公欠の取扱いを受けようとする者は、所定の用紙に必要事項を記入し、次の各号によってすみやかに提出しなければならない。

(1) 第２条に該当するときは、事務局教務課、学生支援センターまたはキャリアセンターに提出する。
(2) 第３条に該当するときは、学生支援センターまたはキャリアセンターに提出する。

（取扱い）

第６条　授業科目担当教員は、公欠届を受けたときは第２条、公欠願提出を受けたときは第３条によ

り取扱う。
２　学部長は、受け取る際の条件等を学部毎に付与することができる。
３　授業科目担当教員は、学生に補講の実施またはその授業時間を補うための課題等により、学生の指導を行うものとする。
４　当該時間に試験があったときは、本学学則及び各学部履修規程による。
（改廃）
第７条　本申し合わせの改廃は、教務委員会または学生委員会の発議により、企画運営会議においてこれを行う。

附　則
この申し合わせは、平成２０年８月２２日から施行する。

附　則
この申し合わせは、平成２６年４月１日から施行する。

附　則
この申し合わせは、平成２９年４月１日から施行する。

附　則
この申し合わせは、平成３０年４月１日から施行する。

奈良学園大学 定期試験時の不正行為に関する申し合わせ

（目的）

第１条　定期試験時における不正行為の防止を目的とし、奈良学園大学学生懲戒手続規程第１条第２項に定める、定期試験時（定期試験として定められた期間外に行われるものを含む。）における不正行為に関する対応、措置及び処分について、必要な事項を申し合わせる。

（定期試験の種類）

第２条　定期試験時における不正行為の形式を次の通りとする。

（１）　対面形式で行われる試験における不正行為

（２）　対面形式をとらない試験における不正行為

（不正行為）

第３条　試験中の次の行為は、不正行為とみなす。

（１）　持込みを許可されていない物品を参照すること。

（２）　物品の貸借をすること。

（３）　他人に受験させ、または他人の代わりに受験すること。

（４）　他人の答案をのぞき見することまたは故意に見せること。

（５）　答案用紙を交換すること。

（６）　他の受験者と私語をすること。

（７）　盗用、剽窃、代筆を行う、又はさせること。

（８）　試験監督者の指示に従わないこと。

（対面形式で行われる試験における不正行為に対する措置）

第４条　試験監督者は、不正行為があったと判断した場合には、次の各号の措置を行うものとする。ただし、疑わしい行為の場合は、即時に不正行為とみなすのではなく、一度警告を与えて改善が見られない場合に、次の各号の措置を行うものとする。

（１）　当該受験者の受験を直ちに中止し、学生証、答案用紙を回収する。

（２）　不正行為の証拠物品がある場合は押収する。

（３）　不正行為の証明を確認後、試験終了時刻まで着座のまま待機するよう伝える。

（４）　試験終了後、当該受験者を教務課に引率する。

２　当該受験者の所属学部教務委員は、当該受験者及び試験監督者への聞き取り調査を行い、「不正行為調書」を作成し、学部長に報告する。

３　学部長は、教授会の議を経て、不正行為の認定を行う。

（対面形式をとらない試験における不正行為に対する措置）

第５条　科目担当者は、不正行為があったと判断した場合には、試験終了後１週間以内に教務課を通じて、当該受験者の所属学部に調査依頼を行うこととする。この時、不正行為が疑われる証拠となる資料を提出する 。

２ 当該学部の教務委員は、教務課が受理した証拠書類を基に、不正行為に関する聞き取り調査を行い、「不正行為調書」を作成し、学部長に報告する。聞き取り調査の構成員は次の通りとする。ただし、科目担当者が以下の（ア）及び（イ）に該当する場合は、学部長が指名した他の教員に代えることができる。

（ア） 教務委員１名（別の教務委員１名は陪席することができる）

（イ） 当該学生の所属学科または専修の長

（ウ） 教務課長

３ 学部長は、教授会の議を経て、不正行為の認定を行う。

（不正行為に対する処分）

第６条　不正行為と認定された場合は、原則、当該学期に履修登録した全授業科目の単位を無効とする。ただし、演習科目・実技科目についてはこの限りではない。

（処分の通知）

第７条　学部長は、処分決定後すみやかに不正行為を行った学生に対して処分内容を通告し、教育的指導を行うものとする。

（学生の弁明）

第８条　学部長は、当該学生に対し、口頭又は文書による弁明の機会を、前条の通告後１週間以内に与えるものとする。この場合において、当該学生が正当な理由なく口頭による弁明の場に出席しなかった場合又は弁明書を提出しなかった場合には、弁明する権利を放棄したものとみなす。

２ 学部長は、当該学生からの弁明が妥当であると判断した場合には、再調査を行うことができるものとする。

（改廃）

第９条 この申し合わせの改廃は、大学評議会においてこれを行う。

奈良学園大学入学前既修得単位認定細則

（制　　定　平成２８年　４月　１日
最近改正）

（趣旨）

第１条　この細則は、奈良学園大学学則第２１条の規定に基づき、奈良学園大学（以下「本学」という。）に入学した者が、入学前に他の大学、短期大学、高等専門学校の専攻科等（以下「他大学等」という。）において修得した単位(以下「既修得単位」という。)の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（認定の申請）

第２条　第１年次に入学し，既修得単位等の認定を受けようとする者（以下「第１年次入学者」という。）は、入学した年度の指定の期日までに、次の書類を学長に提出するものとする。

(1) 既修得単位認定申請書（別記様式第１号）

(2) 単位認定に係る他大学等の成績証明書

(3) 認定を受けようとする授業科目の講義概要を記載した書類

２　編入学し，既修得単位等の認定を受けようとする者（以下「編入学者」という。）は、入学の日までに、次の書類を学長に提出するものとする。

(1) 単位認定に係る他大学等の成績証明書

(2) 認定を受けようとする授業科目の講義概要を記載した書類

（認定の基準）

第３条　単位認定は、他大学等で履修した授業科目が、本学の授業科目と科目名又は講義内容に類似性があり、かつ単位数が同等以上で、本学の授業科目として読み替えが可能であるかどうかによって判断するものとする。

２　単位認定にあたっては、必要に応じて、当該授業科目担当教員の意見を求めることができることとする。

（認定の方法）

第４条　第１年次入学者の単位認定は、既修得単位認定申請書及び関係書類に基づき、学部長が承認し、学長がこれを認める。なお、学部長は教授会の意見を徴することができる。

２　編入学者の単位認定は、教務委員会が原案を作成し、編入学予定の学部長が承認し、学長がこれを認める。なお、学部長は教授会の意見を徴することができる。

（認定の通知）

第５条　学長は、単位認定の結果を、既修得単位認定通知書（別記様式第２号）により申請者に通知するものとする。

（認定科目の成績評価）

第６条　認定された授業科目の成績評価は、学則第２６条の規定に関わらず「認定」と表記する。

（事務）

第７条　この細則に関わる事務は、事務局教務課においてこれを行う。

（改廃）

第８条　この細則の改廃は、企画運営会議においてこれを行う。

附　則

この細則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

奈良学園大学 GPA 制度に関する規程

（目的）

第1条　この規程は、奈良学園大学大学（以下「本学」という。）における履修科目の成績評価の指標となる Grade Point Average（以下 GPA という。）に関して、その取扱いについて必要な事項を定め、組織的な学修の成績評価を行うことにより、学生の学習意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資することを目的とする。

（評価および GP）

第2条　Grade Point（以下 GP という。）は、成績評価に基づき、次の通りとする。

点数	成績評価	GP
100 点から 90 点まで	秀	4
89 点から 80 点まで	優	3
79 点から 70 点まで	良	2
69 点から 60 点まで	可	1
59 点以下	不可	0

（GPA の算出方法および種類）

第3条　GPA とは、評価を受けた各授業科目の GP に当該科目の単位数を乗じた値を合計し、その値を、評価を受けた授業科目の総単位数で除して得られる数値をいう。

$$\text{GPA} = \frac{\text{（評価を受けた履修登録科目の GP×単位数）の合計}}{\text{評価を受けた授業科目の総単位数}}$$

数値は、小数点以下第 4 位を四捨五入して第 3 位までを表記する。

当該学期に履修した科目を対象とする GPA を「学期 GPA」、当該年度に履修した科目を対象とする GPA を「年度 GPA」、在学中に履修した科目を対象とする GPA を「累積 GPA」とする。

（GPA 対象授業科目）

第4条　履修規程に定める卒業に必要な単位に算入されるすべての科目を GPA の計算対象とする。次の授業科目については、GPA の計算対象科目から除くものとする。

（1）　本学で履修し成績評価を受けた科目であるが、卒業必要単位に計上しない授業科目

（2）　本学以外の大学で修得した授業科目または入学前に他大学等において修得した授業科目

（3）　別に定める履修登録削除可能期間内に履修登録を取り消した科目

（4）　GPA 算出期日に成績が保留または未確定の科目

（GPA の算出期日）

第5条　GPA の算出は、前期は9月 1 日、後期は3月20日までに確定した成績に基づいて行う。

（GPA データの活用）

第6条　GPA は次の事項等に利用する。

（1） 学修指導の基礎資料
（2） 特定の授業科目や選択課程の受講資格基準
（3） 成績優秀者に対する奨学金や授業料減免の基準
（4） 学生表彰の基準
（5） 履修上限単位数の緩和基準
（6） 退学勧告の基準
（7） その他

（履修上限の緩和）
第7条　2年次生以上で、前年度 40 単位以上を修得し、前年度 GPA が 3.000 以上の者については、各学科履修規程に定める履修制限を 2 単位緩和する。
2　1年次生で、前期 20 単位以上を修得し前期 GPA の値が 3.000 以上の者については、各学科履修規程に定める履修制限を当該年度 2 単位緩和する。

（退学勧告）
第8条　2 年以上在籍し、次の各号に該当する者については、学長が退学を勧告する。
（1）累積 GPA が 1.000 未満の者
（2）修得単位数が（在籍年数）×15 未満の者

（GPA の通知）
第9条　GPA の学生への通知は、教務システムにおいて、学期 GPA 、年度 GPA および累積 GPA を表示することにより行う。学科、学年ごとの GPA の分布は、大学ウェブサイト上で公開する。

（成績証明書への記載）
第10条　成績証明書には、累積 GPA を記載するものとする。

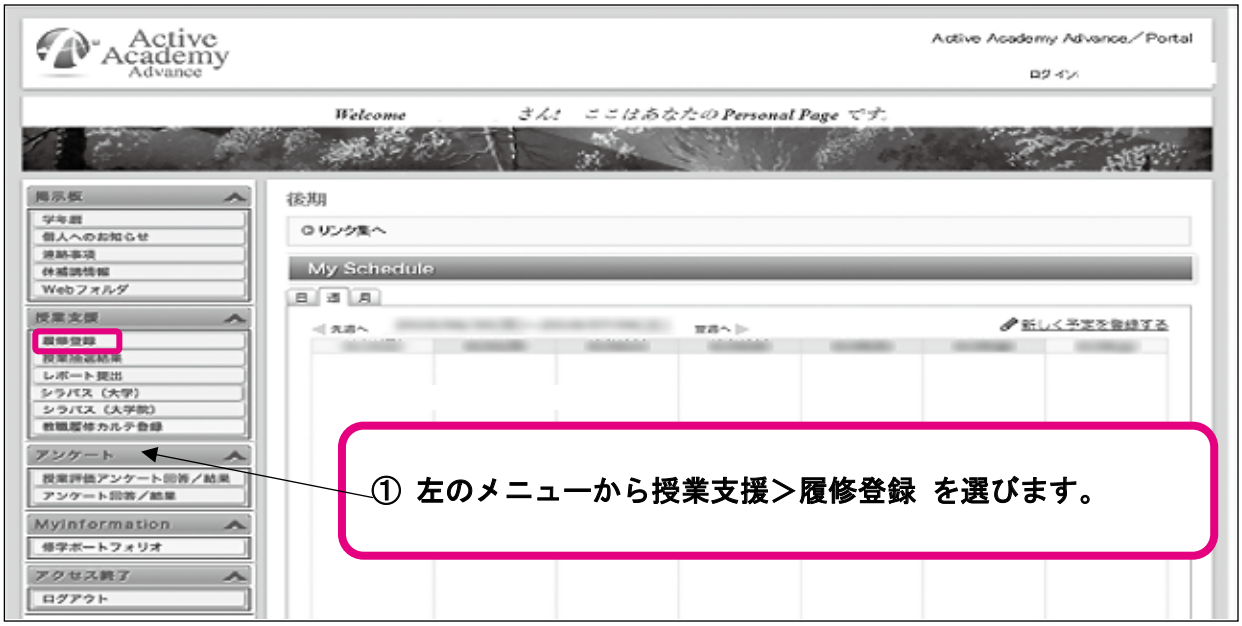
（学修指導）
第11条　各学科は、GPA に基づく学修指導を行うものとし、前年度 GPA が 2.000 未満の者については、特に各学科の教員が学習に関して指導・助言を行う。

（改廃）
第12条　この規程の改廃は、大学評議会においてこれを行う。

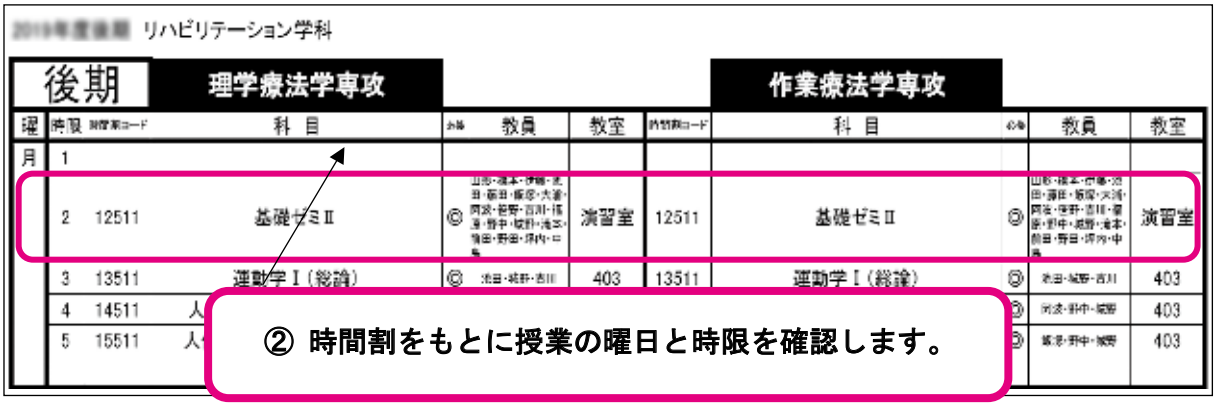
学生用履修登録マニュアル

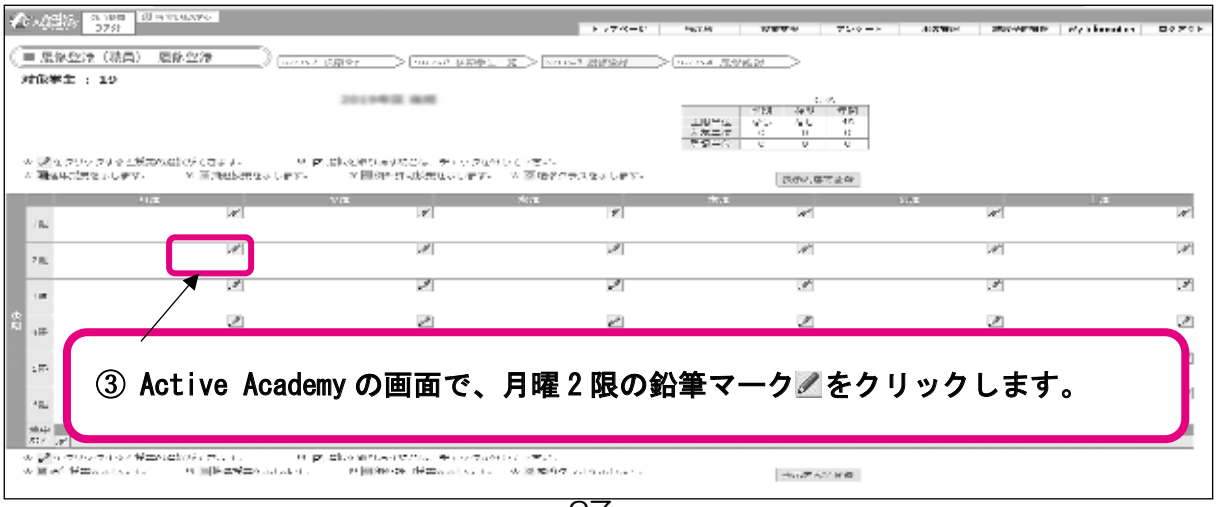
履修登録を行う前に、時間割をもとに履修すべき科目の曜日・時限を確認してください。Active Academyにログインします。

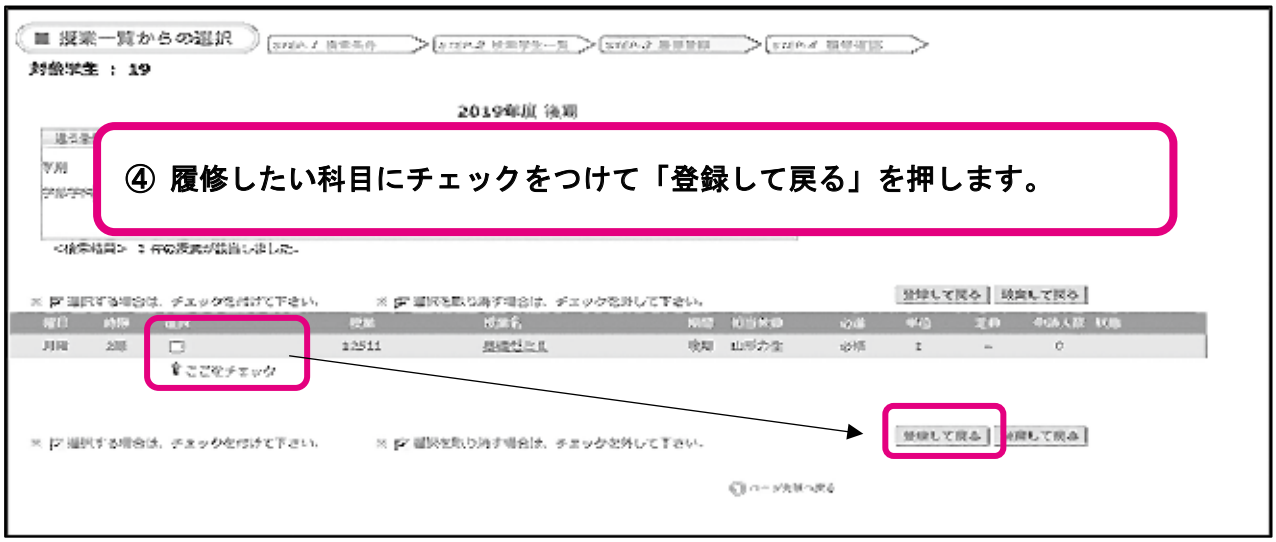
https://tango.naragakuen-u.jp/aa_web/

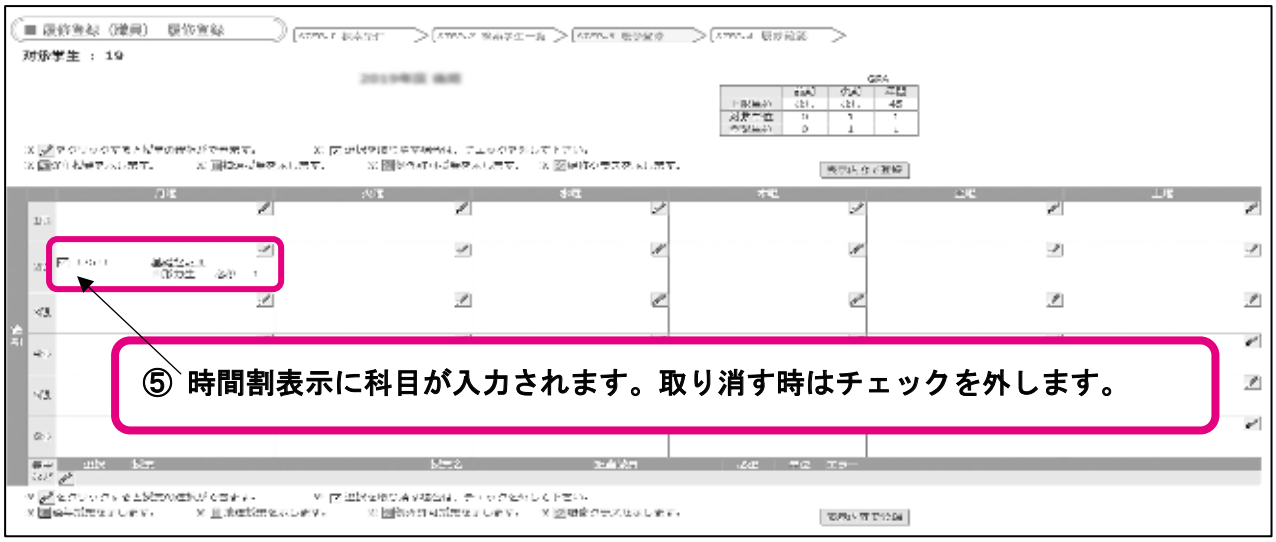


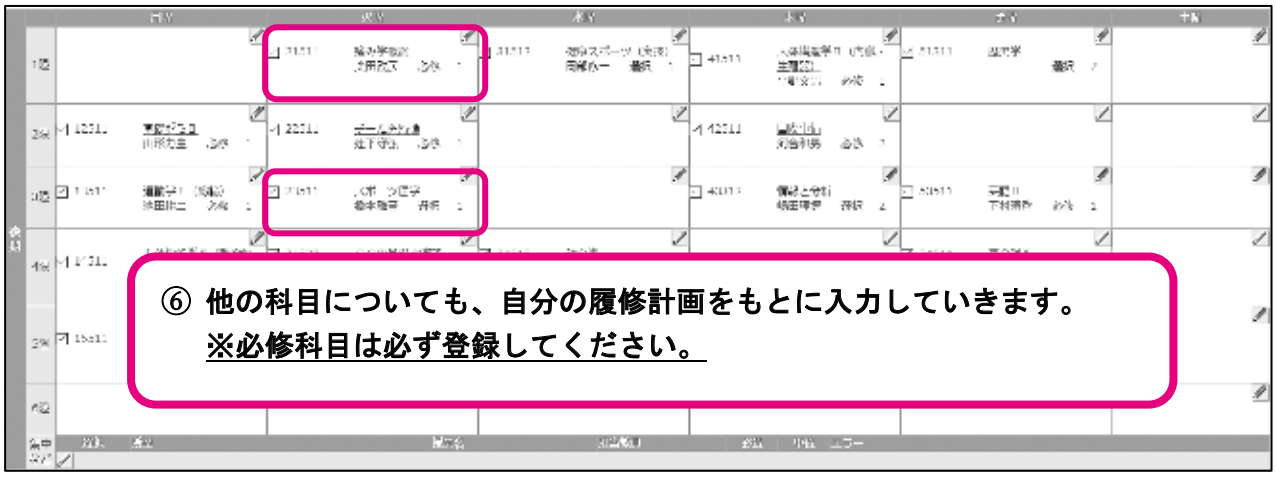
例）リハビリテーション学科「基礎ゼミⅡ」の科目を登録する場合
（リハビリテーション学科時間割）







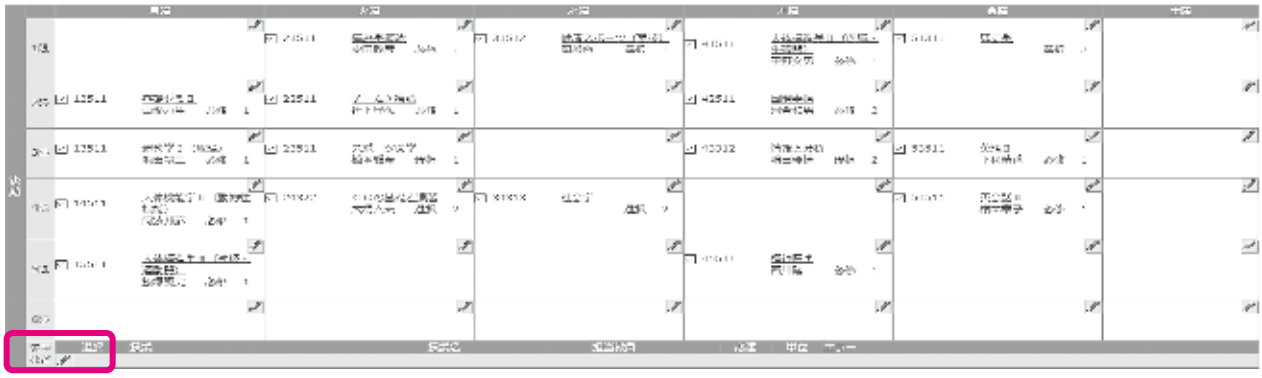




※リハビリテーション学科の「痛み学概論（火曜 1.2 限）」「スポーツ医学（火曜 3 限、水曜 4 限）」看護学科の「疾病治療論Ⅱ（水曜 2 限、金曜 5 限）など、複数の曜日、時限にわたる科目は、時間割コードの入った曜日・時限で登録してください。登録画面上には授業コードが入った科目のところ 1 ヶ所しか表示されませんので、注意してください。

【集中講義および実習科目の登録について】

看護学科・リハビリテーション学科ともに、下部の「集中など」にある鉛筆マーク✎をクリックしてください。特に、実習科目の登録は忘れないようにしてください。



【後期集中科目】

授業コード	科目名	教員	教室
70311	キャリアデザインⅡ	西山	2404
70312	行動の科学	吉岡	2403

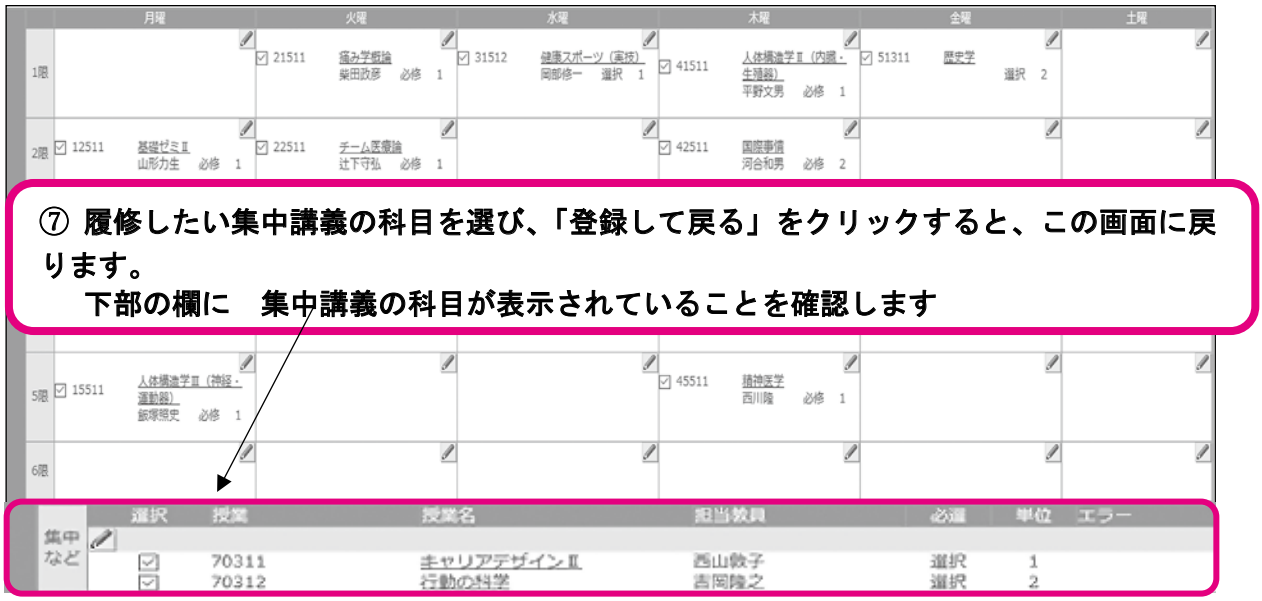
例）看護学科実習科目

【後期集中講義科目】

学年	授業コード	科目名	教員	開講時期
1年次	70311	キャリアデザインⅡ	西山	12/21,23,24(学外)
	70312	行動の科学	吉岡	12/24,25,26
2年次	70321	◎基礎看護学実習Ⅲ	中馬m	実習要項参照
3年次	70331	助産診断・技術学Ⅱ	美甘	領域実習終了後(2406教室)
	70332	助産診断・技術学Ⅲ	服部m	領域実習終了後(2406教室)

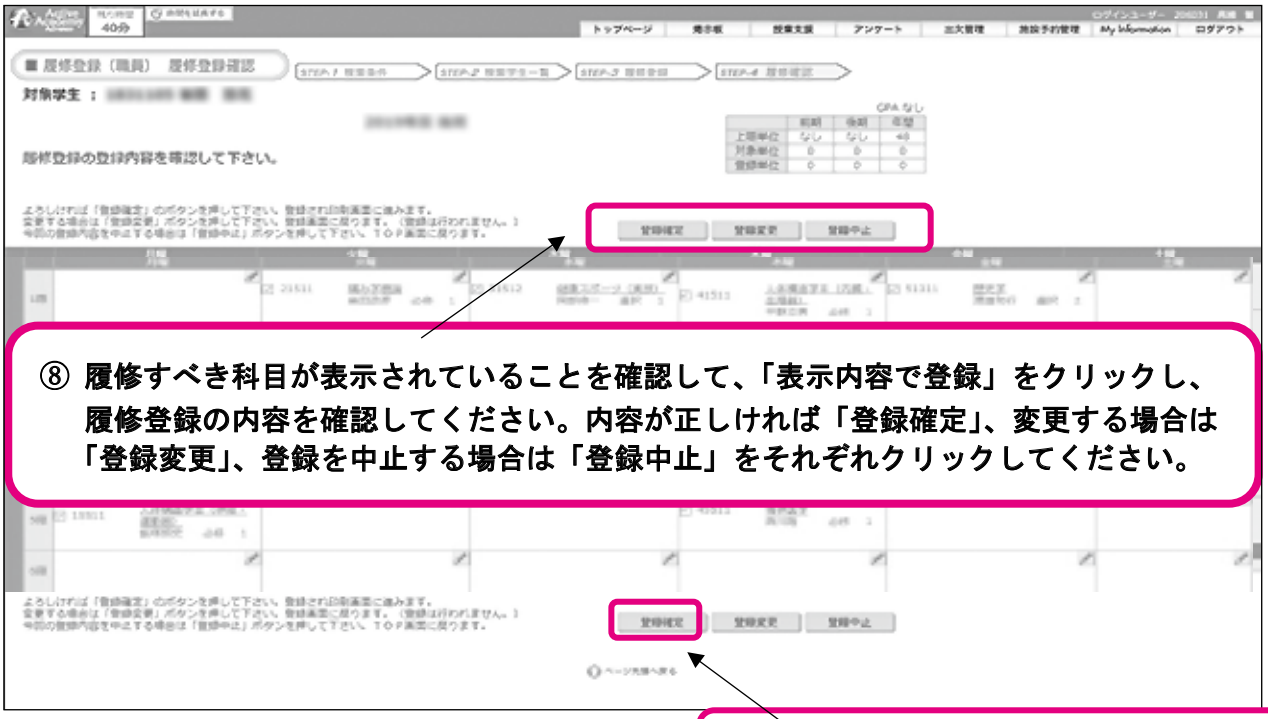
学年	授業コード	科目名	備考
3年次	70333	◎成人看護学実習Ⅰ	実習要項参照
	70334	◎成人看護学実習Ⅱ	
	70335	◎老年看護学実習Ⅰ	
	70336	◎老年看護学実習Ⅱ	
	70337	◎小児看護学実習	
	70338	◎母性看護学実習	
	70339	◎精神看護学実習	
	70340	◎在宅看護学実習	
4年次	70341	公衆衛生看護学実習Ⅰ（地域活動）(通年)	
	70342	助産診断・技術学実習Ⅰ～Ⅳ（通年）	

※時間割表記載の集中講義科目および実習科目を参照してください。



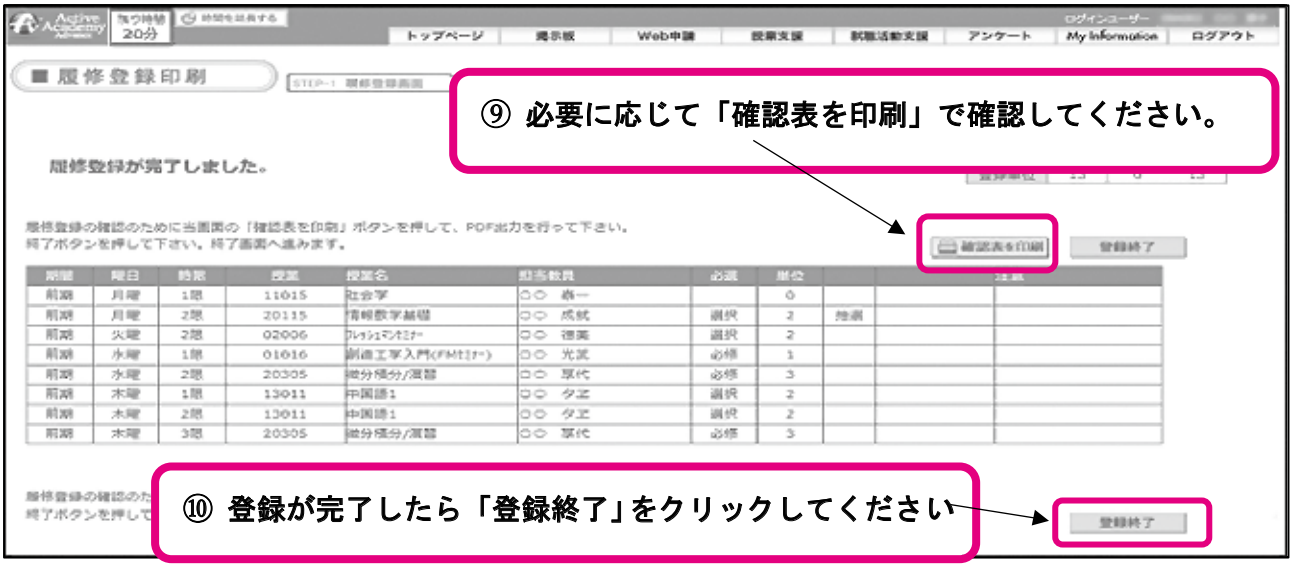
⑦ 履修したい集中講義の科目を選び、「登録して戻る」をクリックすると、この画面に戻ります。

下部の欄に　集中講義の科目が表示されていることを確認します



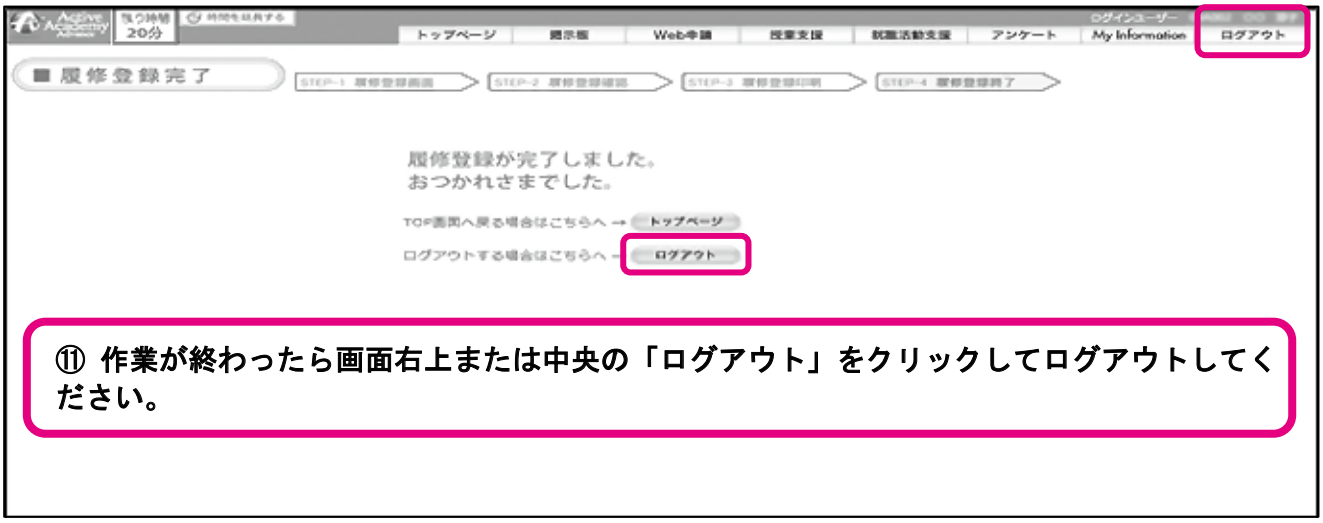
⑧ 履修すべき科目が表示されていることを確認して、「表示内容で登録」をクリックし、履修登録の内容を確認してください。内容が正しければ「登録確定」、変更する場合は「登録変更」、登録を中止する場合は「登録中止」をそれぞれクリックしてください。

※「登録確定」で履修が確定します。



⑨ 必要に応じて「確認表を印刷」で確認してください。

⑩ 登録が完了したら「登録終了」をクリックしてください



⑪ 作業が終わったら画面右上または中央の「ログアウト」をクリックしてログアウトしてください。

奈良学園大学
NARAGAKUEN UNIVERSITY
〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1
TEL 0742-95-9800　FAX 0742-95-9850

2024 年度　入学生

リハビリテーション学科

理学療法学専攻
作業療法学専攻

リハビリテーション学科（2023 年度以降入学生）

履修規程

（総　　則）

第１条　本学学則第 13 条第３項の規定に基づき、保健医療学部リハビリテーション学科（以下「本学科」）の教育課程及び授業科目の履修については、この規程の定めるところによる。

（卒業資格）

第２条　本学科を卒業するためには、４年以上在学し、128 単位以上を修得しなければならない。

（授業科目の区分）

第３条　授業科目は、これを共通教育科目、専門基礎科目及び専門科目に区分する。

２　共通教育科目は、これを基礎教養科目群、共生教養科目群、奈良・国際科目群、情報教養科目群、キャリア形成科目群及び、導入基礎科目群に区分する。

３　専門基礎科目は、これを人体の構造と機能及び心身の発達科目群、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進科目群、保健医療福祉とリハビリテーション科目群に区分する。

４　専門科目は、これを以下のように区分する。

〈理学療法学専攻〉両専攻共通専門、基礎理学療法学、理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学、臨床実習

〈作業療法学専攻〉両専攻共通専門、基礎作業療法学、作業療法評価学、作業療法治療学、地域作業療法学、臨床実習

（授業科目の履修）

第４条　本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

（１）共通教育科目（選択科目５単位を含む）	２１単位以上
（２）専門基礎科目（選択科目２単位を含む）	４１単位以上
（３）専門科目（選択科目２単位を含む）	６６単位以上

（単　　位）

第５条　各授業科目の単位数は、45 時間の学修を必要とする内容をもって１単位とする。

（配当年次）

第６条　各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。

（授業科目の履修制限）

第７条　授業科目については、原則として、年間 48 単位を超えて履修することができない。

（履修登録）
第８条　履修登録は、各学期初めに行わなければならない（年２回）。

（履修登録の制限）
第９条　授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。
２　同時限に開講される授業科目は、１科目しか登録することができない。

（再登録）
第 10 条　単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。
２　単位を修得することができなかった授業科目は、第７条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

（履修登録の変更）
第 11 条　履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。
２　学部長が教授会に諮り、特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

（授業科目の開講）
第 12 条　授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

（授業の組分け）
第 13 条　履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

（単位の認定）
第 14 条　担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という）、または平素の履修状況（学習態度等）により学修の成果を評価して単位を与える。
２　各授業への出席が授業時間の３分の２（実習においては５分の４）に満たない場合は再履修とする。

（単位認定を受ける資格）
第 15 条　次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。
（１）授業料その他諸納入金が未納であるとき
（２）履修登録をしていないとき

（試験等の成績評価）
第 16 条　試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。
（１）100 点から 90 点まで　秀
（２）89 点から 80 点まで　優
（３）79 点から 70 点まで　良
（４）69 点から 60 点まで　可
（５）59 点以下　不可（不合格）

（受験上の注意）
第 17 条　学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

（再試験等）
第 18 条　試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。
２　再試験等の実施については、別に定める。
３　再試験等で合格した者の成績評価は、60 点（可）とする。

（追試験等）
第 19 条　病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。
２　追試験等の実施については、別に定める。
３　追試験等の結果の成績は、一割減とする。

附　則
この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

1. 履修に関する留意点

1）授業の形態

授業は、その特性によって、講義、演習、実験もしくは実習のいずれかにより又はこれらの併用により行います。授業は、演習や実習などの体験的学習を多く採用し、必要に応じて多様なメディアを利用して行います。演習及び実習等では適宜、数名の小グループを編成して行います。

2）授業へ出席

各授業への出席が授業時間の３分の２（臨床実習科目においては５分の４）に満たない場合は、再履修とします。

遅刻及び早退について、原則として、20 分未満の場合は３分の１回の欠席扱いとし、20 分以上の場合は１回の欠席扱いとします。

3）履修指導の体制

各学年に専任教員の担任を置き、個別の履修指導を行います。学習、学生生活、課外活動、進路等についても支援を行いますので適時相談に来てください。

4）臨床実習科目の履修に関する留意点

臨床実習科目を履修するためには、次の表に示す実習ごとの先修条件を満たしておく必要があります。その他の詳細は「臨床実習の手引き」に記載していますので熟読してください。

先修条件

〇理学療法学専攻

臨床実習科目名	開講年次	先修条件
理学療法評価実習	3 年次後期	1. 専門基礎と専門科目のうち、2 年次後期までに開講された必修科目の単位をすべて修得していること 2. 専門基礎と専門科目のうち、3 年次前期に開講された必修科目をすべて履修していること 3. 理学療法客観的臨床能力演習Ⅰの単位を修得していること
理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ	4 年次前期	専門基礎と専門科目のうち、3 年次後期までに開講された必修科目の単位をすべて修得していること

○作業療法学専攻

臨床実習科目名	開講年次	先修条件
作業療法見学実習	1 年次後期	1 年次前期に開講された専門科目の単位をすべて修得していること
地域作業療法実習	2 年次後期	作業療法見学実習および地域作業療法学Ⅰの単位を修得していること
作業療法評価実習	3 年次後期	1. 専門基礎と専門科目のうち、2 年次後期までに開講された必修科目の単位をすべて修得していること 2. 専門基礎と専門科目のうち、3年次前期に開講された必修科目をすべて履修していること 3. 作業療法客観的臨床能力演習Ⅰの単位を修得していること
作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ	4 年次前期	専門基礎と専門科目のうち、3 年次後期までに開講された必修科目の単位をすべて修得していること

2. 教育目標と教育課程編成の考え方

1）教育目標

学生は以下に示す教育目標と教育課程編成の考え方を理解し、ディプロマ・ポリシーを達成するとともに理学療法士あるいは作業療法士の国家試験受験資格が取得できるよう努めてください。

日々変化する医療・社会情勢を的確にとらえ、科学的根拠に基づいた知識と技術を修得するとともに、多様化する個人・家族・社会のニーズに柔軟に対応して、地域において問題解決能力と実践力を発揮できる人材の養成を目標とします。

2）教育課程編成の考え方

上述の教育目標に基づき以下のようなカリキュラム・ポリシーを掲げ、そのポリシーに相応し、理学療法士あるいは作業療法士の国家試験受験資格が取得できるように理学療法士・作業療法士学校養成所指定規則に定める要件を充足した教育課程を編成しています。

＜カリキュラム・ポリシー＞

リハビリテーション学科では、時代が求める先端医療と地域包括ケアの一翼を担う人材を育成するために各科目をバランスよく配置し、段階的に必要とされる各能力を向上させることができるようカリキュラムを設定する。教育目標を達成するための学科のカリキュラム・ポリシーは、以下のとおりとする。

A．豊かな人間性、論理的な思考力、的確な判断能力を身に付ける教育

B．自然や文化を大切にし、倫理性、社会性、国際的感覚を身に付ける教育

C．主体的な体験や討論を通して自己の考えを確立し、それを豊かに表現する能力を身に付ける教育

D．リハビリテーション医療職に必要な知識・技術、情報活用能力、コミュニケーション能力を身に付ける教育

E．全人的な健康観に立ち、科学的、客観的な根拠及び人間の主観性と対話に基いた創造的な全人的ケアができる能力を身に付ける教育

F．リハビリテーション医療職として協働性を培い、社会のニーズや多様な変化に対応し、他職種と連携してチームで活動できる汎用的能力を身に付ける教育各専攻のカリキュラム・ポリシーは以下のとおりとする。

＜理学療法学専攻のカリキュラム・ポリシー＞

A．理学療法士にふさわしい豊かな人間性、対象者の障害像を理解するための論理的な思考力、効率的な治療計画を立案できる的確な判断能力を身に付ける教育

B．自然や文化を大切にし、医療者としての倫理性、多様化する社会の中で理学療法士としての役割を認識できる社会性と国際的感覚を身に付ける教育

C．主体的な体験や討論を通して自己の考えを確立し、自らの主張や意見を的確に表現する能力を身に付ける教育

D．対象者の身体機能や基本動作能力を改善・向上させるために必要な理学療法の知識・技術と理学療法士に必要な情報活用能力、コミュニケーション能力を身に付ける教育

E．理学療法士として対象者の心と身体の痛みを全人的に理解することができるとともに、科学的、客観的な根拠及び人間の主観性と対話に基いた創造的な全人的ケアができる能力を身に付ける教育

F．理学療法士として協働性を培い、社会のニーズや多様な変化に対応し、対象者が地域で自立した日常生活へ復帰させるために必要な多職種間の連携によるチームへ主体的に活動できる汎用的能力を身に付ける教育

＜作業療法学専攻のカリキュラム・ポリシー＞

A．対象者の心身機能の向上のみならず、生活の質を高めることも求められる作業療法士に必要な豊かな人間性、論理的な思考力、的確な問題解決能力を身に付ける教育

B．対象者の地域社会での生活支援も担う作業療法士として、自然・文化などの社会特性、倫理性を理解できると共に、多様化する社会の中で対応し得る国際的な感覚を身に付ける教育

C．主体的な体験や集団での討論を通して自己の意見を確立し、その意見を論理的にまとめた上で、的確に口頭や記述で表現する能力を身に付ける教育

D．子供から成人、高齢者までの多種多様な疾患、高次脳機能障害を対象として作業を用いた支援・治療を実践する作業療法士に必要な知識および技術、情報機器や言語・非言語的方法を用いた人とのコミュニケーション能力を身に付ける教育

E．作業療法士として、科学的、客観的な根拠に基づいた支援・治療および対象者の主観性や生活背景、障害受容過程を踏まえた精神的ケアが行える能力を身に付ける教育

F．作業療法士として、急速な少子高齢化や障害の多様化による社会的ニーズの変化に対応し、チーム医療や地域包括ケアの中で他職種と連携して活動できる協働性を培い、汎用的能力を身に付ける教育

3. ディプロマ・ポリシーと科目の関連性

次のページ以降に示す表はディプロマ・ポリシー（DP）と科目の関連性を示したものです。学生は、この関連性から修得すべき事項を理解して授業に臨んでください。また、選択科目の選択においては、この関連性を参考にしてください。

理学療法学専攻

ディプロマ・ポリシーと科目との関連性

◎…特に関連が強い科目

○…関連が強い科目

						DP ① 理学療法士として備えるべき専門的知識と技術の修得により、対象者の身体機能や基本動作能力を改善・向上させる能力を身につけ、心と身体の痛みに対して人間愛に基づいた全人的ケアを実践できる能力を備えている		DP ② 理学療法士として対象者がもつ多様で個別的な保健医療ニーズを的確に捉える情報収集と問題解決能力を身につけている		DP ③ 理学療法士として多職種間と連携・協働する能力を備え、チーム医療や地域包括ケアに主体的に参加することで、対象者が自立した日常生活行動を再獲得できるよう安全かつ的確に支援できる		DP ④ 理学療法士としての知識と技術を高め、社会の変化と対象者の保健医療ニーズへ柔軟に対応しようとする意欲をもち、リハビリテーションの発展に貢献できる探求心と研究心を備えている	
年次	科目区分	科目群	科目名	開講期	必修選択	改善・向上させる能力	全人的ケアの実践力	情報収集能力	問題解決能力	連携・協働する能力	支援する能力	ニーズへの対応力	探求心と研究心
1年次	共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	前	必		◎					○	
			英語Ⅱ	後	必		◎					○	
			英会話Ⅰ	前	必		◎					○	
			英会話Ⅱ	後	必		◎					○	
			中国語基礎Ⅰ	前	選		◎					○	
			中国語基礎Ⅱ	後	選		◎					○	
			中国語会話	前	選		◎					○	
			スペイン語基礎Ⅰ	前	選		◎					○	
			スペイン語基礎Ⅱ	後	選		◎					○	
			スペイン語会話	前	選		◎					○	
			文学	後	選		◎					○	
			哲学	前	選		◎			○			
			倫理学	前	選		◎			○			
			心理学	前	必	◎					○		
			行動の科学	後	選	◎					○		
			文化人類学	後	選		◎					○	
			音楽の世界	後	選		◎					○	
			社会学	後	選		◎					○	
			日本国憲法	前	選		◎					○	
			歴史学	後	選		◎					○	
			地理学	後	選		◎					○	
			数学の世界	前	選				○				◎
			自然科学の基礎	後	選				○				◎
			環境化学の基礎	後	選				○				◎
			健康スポーツ（理論）	前	必	◎	○						
			健康スポーツ（実技）	後	選		○			◎			
			パラスポーツ指導論	後	選		○			○	◎		
			スポーツ実技Ⅰ	前	選		○			◎			
			スポーツ実技Ⅱ	後	選		○			◎			

理学療法学専攻

ディプロマ・ポリシーと科目との関連性

◎…特に関連が強い科目
〇…関連が強い科目

						DP ① 理学療法士として備えるべき専門的知識と技術の修得により、対象者の身体機能や基本動作能力を改善・向上させる能力を身につけ、心と身体の痛みに対して人間愛に基づいた全人的ケアを実践できる能力を備えている		DP ② 理学療法士として対象者がもつ多様で個別的な保健医療ニーズを的確に捉える情報収集と問題解決能力を身につけている		DP ③ 理学療法士として多職種間と連携・協働する能力を備え、チーム医療や地域包括ケアに主体的に参加することで、対象者が自立した日常生活行動を再獲得できるよう安全かつ的確に支援できる		DP ④ 理学療法士としての知識と技術を高め、社会の変化と対象者の保健医療ニーズへ柔軟に対応しようとする意欲をもち、リハビリテーションの発展に貢献できる探求心と研究心を備えている	
年次	科目区分	科目群	科目名	開講期	必修選択	改善・向上させる能力	全人的ケアの実践力	情報収集能力	問題解決能力	連携・協働する能力	支援する能力	ニーズへの対応力	探求心と研究心
1年次	共通教育科目	共生教養	共生と社会	後	選						◎	○	
			人権論	前	選						◎	○	
			ボランティア活動	前	必						◎	○	
			生活と環境	前	選						◎	○	
		奈良・国際	奈良学	前	選		◎					○	
			けいはんな学研都市学	後	必		◎					○	
			異文化コミュニケーション	後	選		◎					○	
			国際事情	後	選		◎					○	
		情報教養	情報機器の操作	前	必			◎	○				
			情報倫理とセキュリティ	前	選			◎	○				
			データの世界	前	選			◎	○				
			情報と分析	後	必			◎	○				
			ＣＧの基礎と演習	後	選			◎	○				
		キャリア形成	キャリアデザインⅠ	前	選		○					◎	
			キャリアデザインⅡ	後	選		○					◎	
		導入基礎	ラーニングスキルズ	前	必				◎				○
			ライティングスキル	後	必				◎				○
	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ	前	必	◎	○						
			人体構造学Ⅱ	後	必	◎	○						
			人体構造学Ⅲ	後	必	◎	○						
			人体構造学演習	後	必	◎	○						
			人体機能学Ⅰ	前	必	◎	○						
			人体機能学Ⅱ	後	必	◎	○						
			人間発達学	前	必	◎	○						
			運動学Ⅰ	後	必	◎	○						
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	後	必	◎						○	
			リハビリテーション医学	後	必	◎						○	
			痛み学概論	前	必	◎						○	
		保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	前	必					◎	○		
			チーム医療論	後	必					◎	○		

理学療法学専攻

ディプロマ・ポリシーと科目との関連性

◎…特に関連が強い科目
○…関連が強い科目

						DP ① 理学療法士として備えるべき専門的知識と技術の修得により、対象者の身体機能や基本動作能力を改善・向上させる能力を身につけ、心と身体の痛みに対して人間愛に基づいた全人的ケアを実践できる能力を備えている		DP ② 理学療法士として対象者がもつ多様で個別的な保健医療ニーズを的確に捉える情報収集と問題解決能力を身につけている		DP ③ 理学療法士として多職種間と連携・協働する能力を備え、チーム医療や地域包括ケアに主体的に参加することで、対象者が自立した日常生活行動を再獲得できるよう安全かつ的確に支援できる		DP ④ 理学療法士としての知識と技術を高め、社会の変化と対象者の保健医療ニーズへ柔軟に対応しようとする意欲をもち、リハビリテーションの発展に貢献できる探求心と研究心を備えている	
年次	科目区分	科目群	科目名	開講期	必修選択	改善・向上させる能力	全人的ケアの実践力	情報収集能力	問題解決能力	連携・協働する能力	支援する能力	ニーズへの対応力	探求心と研究心
1年次	専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論	前	必	◎						○	
		臨床実習	理学療法見学実習Ⅰ	後	必	◎						○	
			理学療法見学実習Ⅱ	後	必	◎						○	
2年次	共通教育科目	キャリア形成	キャリアディベロップメントⅠ	前	選		◎					○	
			キャリアディベロップメントⅡ	後	選		◎					○	
	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体機能学演習	前	必	◎	○						
			運動学Ⅱ	前	必	◎	○						
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学	前	必	◎	○						
			内科学	後	必	◎	○						
			神経内科学	前	必	◎	○						
			心身医学概論	後	選	◎	○						
			病理学	前	必	◎	○						
			栄養学	前	必	◎	○						
			臨床心理学	後	必	◎					○		
			スポーツ医学	後	選	◎						○	
			薬理学概論	後	必	◎	○						
		保健医療福祉とリハビリテーション	国際リハビリテーション論	前	必		○					◎	
			先端リハビリテーション論	後	必		○					◎	
	専門科目	基礎理学療法学	臨床運動学	後	必	◎	○						
		理学療法評価学	理学療法基礎評価学	前	必	◎	○						
			理学療法評価学Ⅰ	前	必	◎	○						
			理学療法評価学Ⅱ	前	必	◎	○						
			理学療法評価学Ⅲ	後	必	◎	○						
		理学療法治療学	基礎運動療法学	前	必	◎	○						
			義肢装具学Ⅰ	前	必		○				◎		
			義肢装具学Ⅱ	後	必		○				◎		
			日常生活活動学Ⅰ	前	必		○				◎		
			日常生活活動学Ⅱ	後	必				○		◎		
			物理療法学	後	必	◎	○						

理学療法学専攻

ディプロマ・ポリシーと科目との関連性

◎…特に関連が強い科目
○…関連が強い科目

DP ①
理学療法士として備えるべき専門的知識と技術の修得により、対象者の身体機能や基本動作能力を改善・向上させる能力を身につけ、心と身体の痛みに対して人間愛に基づいた全人的ケアを実践できる能力を備えている

DP ②
理学療法士として対象者がもつ多様で個別的な保健医療ニーズを的確に捉える情報収集と問題解決能力を身につけている

DP ③
理学療法士として多職種間と連携・協働する能力を備え、チーム医療や地域包括ケアに主体的に参加することで、対象者が自立した日常生活行動を再獲得できるよう安全かつ的確に支援できる

DP ④
理学療法士としての知識と技術を高め、社会の変化と対象者の保健医療ニーズへ柔軟に対応しようとする意欲をもち、リハビリテーションの発展に貢献できる探求心と研究心を備えている

年次	科目区分	科目群	科目名	開講期	必修選択	改善・向上させる能力	全人的ケアの実践力	情報収集能力	問題解決能力	連携・協働する能力	支援する能力	ニーズへの対応力	探求心と研究心
2年次	専門科目	地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ	前	必						◎	○	
			地域理学療法学Ⅱ	後	必				○		◎		
		臨床実習	理学療法見学実習Ⅲ	後	必						◎	○	
3年次	専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	救命救急学概論	前	必	◎	○						
	専門科目	保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーションと先端テクノロジーⅠ	前	必	◎							○
			リハビリテーションと先端テクノロジーⅡ	後	必	◎							○
		基礎理学療法学	理学療法ゼミナールⅠ	前	必				◎				○
			理学療法ゼミナールⅡ	後	必				◎				○
		理学療法評価学	理学療法計画論	後	必		◎	○					
			理学療法客観的臨床能力演習Ⅰ	前	必		◎		○			○	
		理学療法治療学	運動器障害理学療法学Ⅰ	前	必	◎	○						
			運動器障害理学療法学Ⅱ	後	必	◎	○						
			中枢神経障害理学療法学Ⅰ	前	必	◎	○						
			中枢神経障害理学療法学Ⅱ	後	必	◎	○						
			中枢神経障害理学療法学Ⅲ	後	必	◎	○						
			小児期障害理学療法学	前	必	◎	○						
			スポーツ理学療法学	前	必	◎	○						
			内部障害理学療法学Ⅰ	前	必	◎	○						
			内部障害理学療法学Ⅱ	後	必	◎	○						
			内部障害理学療法学Ⅲ	後	必	◎	○						
			老年期障害理学療法学	前	必	◎	○						
			神経筋障害理学療法学	後	必	◎	○						
			終末期・緩和理学療法学	後	必	◎	○						
			理学療法客観的臨床能力演習Ⅱ	後	必	◎	○						
		地域理学療法学	福祉用具・生活環境論	前	必						◎	○	
		共通専門	医療リスクマネジメント	前	必				○			◎	
			疼痛リハビリテーション学	前	選		◎					○	
			ウイメンズヘルスケア	前	選		◎					○	
			ヘルスプロモーション	前	選	○						◎	
			認知発達障害ケア	後	選	○						◎	
		臨床実習	理学療法評価実習	後	必	◎	○	○					

理学療法学専攻

ディプロマ・ポリシーと科目との関連性

◎…特に関連が強い科目
○…関連が強い科目

						DP ① 理学療法士として備えるべき専門的知識と技術の修得により、対象者の身体機能や基本動作能力を改善・向上させる能力を身につけ、心と身体の痛みに対して人間愛に基づいた全人的ケアを実践できる能力を備えている		DP ② 理学療法士として対象者がもつ多様で個別的な保健医療ニーズを的確に捉える情報収集と問題解決能力を身につけている		DP ③ 理学療法士として多職種間と連携・協働する能力を備え、チーム医療や地域包括ケアに主体的に参加することで、対象者が自立した日常生活行動を再獲得できるよう安全かつ的確に支援できる		DP ④ 理学療法士としての知識と技術を高め、社会の変化と対象者の保健医療ニーズへ柔軟に対応しようとする意欲をもち、リハビリテーションの発展に貢献できる探求心と研究心を備えている	
年次	科目区分	科目群	科目名	開講期	必修選択	改善・向上させる能力	全人的ケアの実践力	情報収集能力	問題解決能力	連携・協働する能力	支援する能力	ニーズへの対応力	探求心と研究心
4年次	専門科目	両専攻共通専門	職場管理論	後	必		○			◎			
			リハビリテーション教育学	後	必	◎							○
		基礎理学療法学	理学療法卒業研究	後	必				○				◎
			理学療法総合演習	後	必	◎	○						
		臨床実習	理学療法総合臨床実習Ⅰ	前	必	◎	○	○	○				
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	前	必	◎	○	○	○				

作業療法学専攻

ディプロマ・ポリシーと科目との関連性

◎…特に関連が強い科目

〇…関連が強い科目

DP ①
作業療法士として、多種多様な対象者および疾患に対応するため、備えるべき専門的な知識と技術を修得する。また、全人的ケアが実践できる態度を身につけ、人生への満足度すなわち生活の質を高める支援ができる能力を備えている

DP ②
作業療法士として対象者の個別的で多様な保健医療ニーズを把握できる情報収集能力と保健医療の課題に対して問題解決に向けた取り組みが行える能力を備えている

DP ③
対象者が地域社会において主体的に自立した生活をおくれるように、チーム医療や地域包括ケアの中で、対象者を生活の視点で支援するという作業療法士の役割・専門性を理解し、多職種間での連携や協働ができる能力を修得する

DP ④
社会情勢や人口構成の変化に伴う社会ニーズの変化に対応し、さらなる発展に貢献するために、作業療法に対する探求心と研究心を備えている

年次	科目区分	科目群	科目名	開講期	必修選択	専門的 知識・技術	生活の質を高める支援	情報収集能力	問題解決能力	連携・協働する能力	支援する能力	ニーズへの対応力	探求心と研究心
1年次	共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	前	必		◎					○	
			英語Ⅱ	後	必		◎					○	
			英会話Ⅰ	前	必		◎					○	
			英会話Ⅱ	後	必		◎					○	
			中国語基礎Ⅰ	前	選		◎					○	
			中国語基礎Ⅱ	後	選		◎					○	
			中国語会話	前	選		◎					○	
			スペイン語基礎Ⅰ	前	選		◎					○	
			スペイン語基礎Ⅱ	後	選		◎					○	
			スペイン語会話	前	選		◎					○	
			文学	後	選		◎					○	
			哲学	前	選		◎			○			
			倫理学	前	選		◎			○			
			心理学	前	必	◎					○		
			行動の科学	後	選	◎					○		
			文化人類学	後	選		◎					○	
			音楽の世界	後	選		◎					○	
			社会学	後	選		◎					○	
			日本国憲法	前	選		◎					○	
			歴史学	後	選		◎					○	
			地理学	後	選		◎					○	
			数学の世界	前	選				○				◎
			自然科学の基礎	後	選				○				◎
			環境化学の基礎	後	選				○				◎
			健康スポーツ（理論）	前	必	◎	○						
			健康スポーツ（実技）	後	選		○			◎			
			パラスポーツ指導論	後	選		○			○	◎		
			スポーツ実技Ⅰ	前	選		○			◎			
			スポーツ実技Ⅱ	後	選		○			◎			

作業療法学専攻

ディプロマ・ポリシーと科目との関連性

◎…特に関連が強い科目
〇…関連が強い科目

						DP ① 作業療法士として、多種多様な対象者および疾患に対応するため、備えるべき専門的な知識と技術を修得する。また、全人的ケアが実践できる態度を身につけ、人生への満足度すなわち生活の質を高める支援ができる能力を備えている		DP ② 作業療法士として対象者の個別的で多様な保健医療ニーズを把握できる情報収集能力と保健医療の課題に対して問題解決に向けた取り組みが行える能力を備えている		DP ③ 対象者が地域社会において主体的に自立した生活をおくれるように、チーム医療や地域包括ケアの中で、対象者を生活の視点で支援するという作業療法士の役割・専門性を理解し、多職種間での連携や協働ができる能力を修得する		DP ④ 社会情勢や人口構成の変化に伴う社会ニーズの変化に対応し、さらなる発展に貢献するために、作業療法に対する探求心と研究心を備えている	
年次	科目区分	科目群	科目名	開講期	必修選択	専門的 知識・技術	生活の質を高める支援	情報収集能力	問題解決能力	連携・協働する能力	支援する能力	ニーズへの対応力	探求心と研究心
1年次	共通教育科目	共生教養	共生と社会	後	選						◎	○	
			人権論	前	選						◎	○	
			ボランティア活動	前	必						◎	○	
			生活と環境	前	選						◎	○	
		奈良・国際	奈良学	前	選		◎					○	
			けいはんな学研都市学	後	必		◎					○	
			異文化コミュニケーション	後	選		◎					○	
			国際事情	後	選		◎					○	
		情報教養	情報機器の操作	前	必			◎	○				
			情報倫理とセキュリティ	前	選			◎	○				
			データの世界	前	選			◎	○				
			情報と分析	後	必			◎	○				
			ＣＧの基礎と演習	後	選			◎	○				
		キャリア形成	キャリアデザインⅠ	前	選		○					◎	
			キャリアデザインⅡ	後	選		○					◎	
		導入基礎	ラーニングスキルズ	前	必				◎				○
			ライティングスキル	後	必				◎				○
	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ	前	必	◎	○						
			人体構造学Ⅱ	後	必	◎	○						
			人体構造学Ⅲ	後	必	◎	○						
			人体構造学演習	後	必	◎	○						
			人体機能学Ⅰ	前	必	◎	○						
			人体機能学Ⅱ	後	必	◎	○						
			人間発達学	前	必	◎	○						
			運動学Ⅰ	後	必	◎	○						
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	後	必	◎						○	
			リハビリテーション医学	後	必	◎						○	
			痛み学概論	前	必	◎						○	
		保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	前	必					◎	○		
			チーム医療論	後	必					◎	○		

作業療法学専攻

ディプロマ・ポリシーと科目との関連性

◎…特に関連が強い科目

〇…関連が強い科目

DP ①
作業療法士として、多種多様な対象者および疾患に対応するため、備えるべき専門的な知識と技術を修得する。また、全人的ケアが実践できる態度を身につけ、人生への満足度すなわち生活の質を高める支援ができる能力を備えている

DP ②
作業療法士として対象者の個別的で多様な保健医療ニーズを把握できる情報収集能力と保健医療の課題に対して問題解決に向けた取り組みが行える能力を備えている

DP ③
対象者が地域社会において主体的に自立した生活をおくれるように、チーム医療や地域包括ケアの中で、対象者を生活の視点で支援するという作業療法士の役割・専門性を理解し、多職種間での連携や協働ができる能力を修得する

DP ④
社会情勢や人口構成の変化に伴う社会ニーズの変化に対応し、さらなる発展に貢献するために、作業療法に対する探求心と研究心を備えている

年次	科目区分	科目群	科目名	開講期	必修選択	専門的知識・技術	生活の質を高める支援	情報収集能力	問題解決能力	連携・協働する能力	支援する能力	ニーズへの対応力	探求心と研究心
1年次	専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	前	必	◎						○	
		臨床実習	作業療法見学実習	後	必	◎						○	
2年次	共通教育科目	キャリア形成	キャリアディベロップメントⅠ	前	選		◎					○	
			キャリアディベロップメントⅡ	後	選		◎					○	
	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体機能学演習	前	必	◎	○						
			運動学Ⅱ	前	必	◎	○						
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学	前	必	◎	○						
			内科学	後	必	◎	○						
			神経内科学	前	必	◎	○						
			心身医学概論	後	選	◎	○						
			病理学	前	必	◎	○						
			栄養学	前	必	◎	○						
			臨床心理学	後	必	◎					○		
			スポーツ医学	後	選	◎						○	
			薬理学概論	後	必	◎							
		保健医療福祉とリハビリテーション	国際リハビリテーション論	前	必		○					◎	
			先端リハビリテーション論	後	必		○					◎	
	専門科目	基礎作業療法学	基礎作業学	前	必	○	◎						
		作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ（身体）	前	必	◎	○						
			作業療法評価学Ⅱ（精神）	前	必	◎	○						
			作業療法評価学Ⅲ（身体）	後	必	◎			○				
			作業療法評価学Ⅳ（精神）	後	必	◎			○				
		作業療法治療学	身体障害作業療法学Ⅰ（総論）	前	必	◎	○						
			身体障害作業療法学Ⅱ（運動器）	後	必	◎	○						
			発達障害作業療法学Ⅰ	後	必	◎	○						
			作業技術学	後	必	◎	○						
		地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	前	必	○					◎		
			地域作業療法学Ⅱ	後	必	○					◎		
		臨床実習	地域作業療法実習	後	必	○					◎		

作業療法学専攻

ディプロマ・ポリシーと科目との関連性

◎…特に関連が強い科目

○…関連が強い科目

						DP ① 作業療法士として、多種多様な対象者および疾患に対応するため、備えるべき専門的な知識と技術を修得する。また、全人的ケアが実践できる態度を身につけ、人生への満足度すなわち生活の質を高める支援ができる能力を備えている		DP ② 作業療法士として対象者の個別的で多様な保健医療ニーズを把握できる情報収集能力と保健医療の課題に対して問題解決に向けた取り組みが行える能力を備えている		DP ③ 対象者が地域社会において主体的に自立した生活をおくれるように、チーム医療や地域包括ケアの中で、対象者を生活の視点で支援するという作業療法士の役割・専門性を理解し、多職種間での連携や協働ができる能力を修得する		DP ④ 社会情勢や人口構成の変化に伴う社会ニーズの変化に対応し、さらなる発展に貢献するために、作業療法に対する探求心と研究心を備えている	
年次	科目区分	科目群	科目名	開講期	必修選択	専門的知識・技術	生活の質を高める支援	情報収集能力	問題解決能力	連携・協働する能力	支援する能力	ニーズへの対応力	探求心と研究心
3年次	専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	救命救急学概論	前	必	◎	○						
	専門科目	保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーションと先端テクノロジーⅠ	前	必	◎							○
			リハビリテーションと先端テクノロジーⅡ	後	必	◎							○
		基礎作業療法学	作業療法ゼミナールⅠ	前	必				○				◎
			作業療法ゼミナールⅡ	後	必				○			◎	
		作業療法評価学	作業療法客観的臨床能力演習Ⅰ	前	必	◎			○				
		作業療法治療学	身体障害作業療法学Ⅲ（中枢神経系）	前	必	◎	○						
			身体障害作業療法学Ⅳ（内部障害と難病）	前	必	◎	○						
			精神障害作業療法学Ⅰ	前	必	◎	○						
			精神障害作業療法学Ⅱ	後	必	◎	○						
			発達障害作業療法学Ⅱ	前	必	◎	○						
			老年期障害作業療法学Ⅰ	前	必	◎	○						
			老年期障害作業療法学Ⅱ	後	必	◎	○						
			高次脳機能障害作業療法学Ⅰ	前	必	◎	○						
			高次脳機能障害作業療法学Ⅱ	後	必	◎	○						
			日常生活支援学Ⅰ	前	必	○					◎		
			日常生活支援学Ⅱ	後	必	○					◎		
			義肢装具学	前	必	○					◎		
			作業療法客観的臨床能力演習Ⅱ	後	必	◎	○						
		地域作業療法学	生活環境整備論	後	必	○					◎		
		共通専門	医療リスクマネジメント	前	必				○			◎	
			疼痛リハビリテーション学	前	選		◎					○	
			ウイメンズヘルスケア	前	選		◎					○	
			ヘルスプロモーション	前	選	○						◎	
			認知発達障害ケア	後	選	○						◎	
		臨床実習	作業療法評価実習	後	必	◎	○						

作業療法学専攻

ディプロマ・ポリシーと科目との関連性

◎…特に関連が強い科目

〇…関連が強い科目

DP ①
作業療法士として、多種多様な対象者および疾患に対応するため、備えるべき専門的な知識と技術を修得する。また、全人的ケアが実践できる態度を身につけ、人生への満足度すなわち生活の質を高める支援ができる能力を備えている

DP ②
作業療法士として対象者の個別的で多様な保健医療ニーズを把握できる情報収集能力と保健医療の課題に対して問題解決に向けた取り組みが行える能力を備えている

DP ③
対象者が地域社会において主体的に自立した生活をおくれるように、チーム医療や地域包括ケアの中で、対象者を生活の視点で支援するという作業療法士の役割・専門性を理解し、多職種間での連携や協働ができる能力を修得する

DP ④
社会情勢や人口構成の変化に伴う社会ニーズの変化に対応し、さらなる発展に貢献するために、作業療法に対する探求心と研究心を備えている

年次	科目区分	科目群	科目名	開講期	必修選択	専門的 知識・技術	生活の質を高める支援	情報収集能力	問題解決能力	連携・協働する能力	支援する能力	ニーズへの対応力	探求心と研究心
4年次	専門科目	両専攻共通専門	職場管理論	後	必				○	◎			
			リハビリテーション教育学	後	必	◎							○
		基礎作業療法学	作業療法総合演習	後	必	◎	○						
			作業療法卒業研究	後	必				○				◎
		臨床実習	作業療法総合臨床実習Ⅰ	前	必	◎	○	○	○				
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	前	必	◎	○	○	○				

カリキュラムツリー　理学療法学専攻

	DP① 理学療法士として備えるべき専門的知識と技術の修得により、対象者の身体機能や基本動作能力を改善・向上させる能力を身につけ、心と身体の痛みに対して人間愛に基づいた全人的ケアを実践できる能力を備えている	DP② 理学療法士として対象者がもつ多様で個別的な保健医療ニーズを的確に捉える情報収集と 問題解決能力を身につけている	DP ③ 理学療法士として多職種間と連携・協働する能力を備え、チーム医療や地域包括ケアに主体的に参加することで、対象者が自立した日常生活行動を再獲得できるよう安全かつ的確に支援できる	DP④ 理学療法士としての知識と技術を高め、社会の変化と対象者の保健医療ニーズへ柔軟に対応しようとする意欲をもち、リハビリテーションの発展に貢献できる探求心と研究心を備えている
4年次	理学療法卒業研究	理学療法総合演習　総合臨床実習Ⅰ（理学療法）　総合臨床実習Ⅱ（理学療法）		
	職場管理論　リハビリテーション教育学			
3年次	理学療法ゼミナールⅠ　理学療法ゼミナールⅡ　福祉用具・生活環境論			理学療法評価実習
	救命救急学概論	リハビリテーションと先端テクノロジーⅠ　リハビリテーションと先端テクノロジーⅡ		医療リスクマネジメント
	疼痛リハビリテーション学　ウイメンズヘルスケア　ヘルスプロモーション　認知発達障害ケア			
	理学療法計画論　理学療法客観的臨床能力演習Ⅰ			
	運動器障害理学療法学Ⅰ　運動器障害理学療法学Ⅱ　中枢神経障害理学療法学Ⅰ　中枢神経障害理学療法学Ⅱ　中枢神経障害理学療法学Ⅲ 小児期障害理学療法学　スポーツ理学療法学　内部障害理学療法学Ⅰ　内部障害理学療法学Ⅱ　内部障害理学療法学Ⅲ　老年期障害理学療法学 神経筋障害理学療法学　終末期・緩和理学療法学　理学療法客観的臨床能力演習Ⅱ			
2年次	臨床運動学　地域理学療法学Ⅰ　地域理学療法学Ⅱ　理学療法見学実習Ⅲ			
	人体機能学演習　運動学Ⅱ　整形外科学　内科学　神経内科学　病理学　栄養学　臨床心理学　薬理学概論 国際リハビリテーション論　先端リハビリテーション論			
	心身医学概論　スポーツ医学	理学療法基礎評価学　理学療法評価学Ⅰ　理学療法評価学Ⅱ　理学療法評価学Ⅲ		
	基礎運動療法学　義肢装具学Ⅰ　義肢装具学Ⅱ　日常生活活動学Ⅰ　日常生活活動学Ⅱ　物理療法学			
1年次	理学療法概論　理学療法見学実習Ⅰ　理学療法見学実習Ⅱ			
	人体構造学Ⅰ　人体構造学Ⅱ　人体構造学Ⅲ　人体構造学演習　人体機能学Ⅰ　人体機能学Ⅱ　人間発達学　運動学Ⅰ　精神医学　リハビリテーション医学 痛み学概論　リハビリテーション概論　チーム医療論			
共通教育	中国語基礎Ⅰ　中国語基礎Ⅱ　中国語会話　スペイン語基礎Ⅰ　スペイン語基礎Ⅱ　スペイン語会話　文学　哲学　倫理学 行動の科学　文化人類学　音楽の世界　社会学　日本国憲法　歴史学　地理学　数学の世界　自然科学の基礎　環境化学の基礎 健康スポーツ（実技）　パラスポーツ指導論　スポーツ実技Ⅰ　スポーツ実技Ⅱ　共生と社会　人権論　生活と環境　奈良学 異文化コミュニケーション　情報倫理とセキュリティ　データの世界　ＣＧの基礎と演習　キャリアデザインⅠ　キャリアデザインⅡ 国際事情　キャリアディベロップメントⅠ　キャリアディベロップメントⅡ			
	英語Ⅰ　英語Ⅱ　英会話Ⅰ　英会話Ⅱ　心理学　健康スポーツ（理論）　ボランティア活動　情報機器の操作　けいはんな学研都市学 情報と分析　ラーニングスキルズ　ライティングスキル			

統合と実践
共通専門科目（選択）
治療学
評価学
専門基礎科目（選択）
専門科目
専門基礎科目（必修）
共通教育科目（選択）
共通教育科目（必修）

カリキュラムツリー　作業療法学専攻

	DP ① 作業療法士として、多種多様な対象者および疾患に対応するため、備えるべき専門的な知 識と技術を修得する。また、全人的ケアが実践できる態度を身につけ、人生への満足度すなわち生活の質を高める支援ができる能力を備えている	DP ② 作業療法士として対象者の個別的で多様な保健医療ニーズを把握できる情報収集能力と保健医療の課題に対して問題解決に向けた取り組みが行える能力を備えている	DP ③ 対象者が地域社会において主体的に自立した生活をおくれるように、チーム医療や地域包括ケアの中で、対象者を生活の視点で支援するという作業療法士の役割・専門性を理解し、多職種間での連携や協働ができる能力を修得する	DP ④ 社会情勢や人口構成の変化に伴う社会ニーズの変化に対応し、さらなる発展に貢献するために、作業療法に対する探求心と研究心を備えている
4年次	作業療法卒業研究	作業療法総合演習　総合臨床実習Ⅰ（作業療法）　総合臨床実習Ⅱ（作業療法）		
	職場管理論　リハビリテーション教育学			
3年次	作業療法ゼミナールⅠ　作業療法ゼミナールⅡ　生活環境整備論			作業療法評価実習
	救命救急学概論	リハビリテーションと先端テクノロジーⅠ　リハビリテーションと先端テクノロジーⅡ		医療リスクマネジメント
	疼痛リハビリテーション学　ウイメンズヘルスケア　ヘルスプロモーション　認知発達障害ケア			
	作業療法客観的臨床能力演習Ⅰ			
	身体障害作業療法学Ⅲ（中枢神経系）　身体障害作業療法学Ⅳ（内部障害と難病）　精神障害作業療法学Ⅰ　精神障害作業療法学Ⅱ　発達障害作業療法学Ⅱ 老年期障害作業療法学Ⅰ　老年期障害作業療法学Ⅱ　高次脳機能障害作業療法学Ⅰ　高次脳機能障害作業療法学Ⅱ　日常生活支援学Ⅰ　日常生活支援学Ⅱ 義肢装具学　作業療法客観的臨床能力演習Ⅱ			
2年次	基礎作業学　地域作業療法学Ⅰ　地域作業療法学Ⅱ　地域作業療法実習			
	人体機能学演習　運動学Ⅱ　整形外科学　内科学　神経内科学　病理学　栄養学　臨床心理学　薬理学概論 国際リハビリテーション論　先端リハビリテーション論			
	心身医学概論　スポーツ医学	作業療法評価学Ⅰ（身体）　作業療法評価学Ⅱ（精神）　作業療法評価学Ⅲ（身体）　作業療法評価学Ⅳ（精神）		
	身体障害作業療法学Ⅰ（総論）　身体障害作業療法学Ⅱ（運動器）　発達障害作業療法学Ⅰ　作業技術学			
1年次	作業療法概論　作業療法見学実習			
	人体構造学Ⅰ　人体構造学Ⅱ　人体構造学Ⅲ　人体構造学演習　人体機能学Ⅰ　人体機能学Ⅱ　人間発達学　運動学Ⅰ　精神医学　リハビリテーション医学 痛み学概論　リハビリテーション概論　チーム医療論			
共通教育	中国語基礎Ⅰ　中国語基礎Ⅱ　中国語会話　スペイン語基礎Ⅰ　スペイン語基礎Ⅱ　スペイン語会話　文学　哲学　倫理学 行動の科学　文化人類学　音楽の世界　社会学　日本国憲法　歴史学　地理学　数学の世界　自然科学の基礎　環境化学の基礎 健康スポーツ（実技）　パラスポーツ指導論　スポーツ実技Ⅰ　スポーツ実技Ⅱ　共生と社会　人権論　生活と環境　奈良学 異文化コミュニケーション　情報倫理とセキュリティ　データの世界　ＣＧの基礎と演習　キャリアデザインⅠ　キャリアデザインⅡ 国際事情　キャリアディベロップメントⅠ　キャリアディベロップメントⅡ			
	英語Ⅰ　英語Ⅱ　英会話Ⅰ　英会話Ⅱ　心理学　健康スポーツ（理論）　ボランティア活動　情報機器の操作　けいはんな学研都市学 情報と分析　ラーニングスキルズ　ライティングスキル			

統合と実践
共通専門科目（選択）
治療学
評価学
専門基礎科目（選択）
専門科目
専門基礎科目（必修）
共通教育科目（選択）
共通教育科目（必修）

授業科目表

科目区分	科目群	授業科目	単位数		配当年次	配当年次 ●…必修 ○…選択								時間数	卒業に必要な単位数
						1年		2年		3年		4年			
			必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	1		1前	●								30	必修16単位 選択5単位 以上
		英語Ⅱ	1		1後		●							30	
		英会話Ⅰ	1		1前	●								30	
		英会話Ⅱ	1		1後		●							30	
		中国語基礎Ⅰ		1	1前	○								30	
		中国語基礎Ⅱ		1	1後		○							30	
		中国語会話		1	1前	○								30	
		スペイン語基礎Ⅰ		1	1前	○								30	
		スペイン語基礎Ⅱ		1	1後		○							30	
		スペイン語会話		1	1前	○								30	
		文学		2	1後		○							30	
		哲学		2	1前	○								30	
		倫理学		2	1前	○								30	
		心理学	2		1前	●								30	
		行動の科学		2	1後		○							30	
		文化人類学		2	1後		○							30	
		音楽の世界		2	1後		○							30	
		社会学		2	1後		○							30	
		日本国憲法		2	1前	○								30	
		歴史学		2	1後		○							30	
		地理学		2	1後		○							30	
		数学の世界		2	1前	○								30	
		自然科学の基礎		2	1後		○							30	
		環境化学の基礎		2	1後		○							30	
		健康スポーツ（理論）	1		1前	●								15	
		健康スポーツ（実技）		1	1後		○							30	
		パラスポーツ指導論		1	1後		○							30	
		スポーツ実技Ⅰ		1	1前	○								30	
		スポーツ実技Ⅱ		1	1後		○							30	
	共生教養	共生と社会		2	1後		○							30	
		人権論		2	1前	○								30	
		ボランティア活動	2		1前	●								30	
		生活と環境		2	1前	○								30	

科目区分	科目群	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	時間数	卒業に必要な単位数
						配当年次 ●…必修 ○…選択									
共通教育科目	奈良・国際	奈良学		2	1前	○								30	必修 16 単位 選択 5 単位 以上
		けいはんな学研都市学	1		1後		●							15	
		異文化コミュニケーション		2	1後		○							30	
		国際事情		2	1後		○							30	
	情報教養	情報機器の操作	2		1前	●								30	
		情報倫理とセキュリティ		2	1前	○								30	
		データの世界		2	1前	○								30	
		情報と分析	2		1後		●							30	
		ＣＧの基礎と演習		2	1後		○							30	
	キャリア形成	キャリアデザインⅠ		1	1前	○								30	
		キャリアデザインⅡ		1	1後		○							30	
		キャリアディベロップメントⅠ		1	2前			○						30	
		キャリアディベロップメントⅡ		1	2後				○					30	
	導入基礎	ラーニングスキルズ	1		1前	●								30	
		ライティングスキル	1		1後		●							30	
	小計（48 科目）		16	58	—										

※「中国語基礎Ⅱ」を履修するためには「中国語基礎Ⅰ」を修得していることが、「スペイン語基礎Ⅱ」を履修するためには「スペイン語基礎Ⅰ」を修得していることが必要です。

科目区分	科目群	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	時間数	卒業に必要な単位数
						配当年次 ●…必修 ○…選択									
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ	2		1前	●								30	必修 14 単位
		人体構造学Ⅱ	1		1後		●							15	
		人体構造学Ⅲ	1		1後		●							15	
		人体構造学演習	1		1後		●							30	
		人体機能学Ⅰ	2		1前	●								30	
		人体機能学Ⅱ	1		1後		●							15	
		人体機能学演習	1		2前			●						30	
		人間発達学	1		1前	●								15	
		運動学Ⅰ	2		1後		●							30	
		運動学Ⅱ	2		2前			●						30	

科目区分	科目群	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	時間数	卒業に必要な単位数
						配当年次 ●…必修 ○…選択									
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	2		1後		●							30	必修18単位 選択2単位 以上
		リハビリテーション医学	2		1後		●							30	
		痛み学概論	2		1前	●								30	
		整形外科学	2		2前			●						30	
		内科学	2		2後				●					30	
		神経内科学	2		2前			●						30	
		病理学	1		2前			●						15	
		栄養学	1		2前			●						15	
		臨床心理	2		2後				●					30	
		心身医学概論		2	2後				○					30	
		スポーツ医学		2	2後				○					30	
		薬理学概論	1		2後				●					15	
		救命救急学概論	1		3前					●				15	
	保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	1		1前	●								15	必修7単位
		チーム医療論	1		1後		●							15	
		国際リハビリテーション論	1		2前			●						15	
		先端リハビリテーション論	2		2後				●					30	
		リハビリテーションと先端テクノロジーⅠ	1		3前					●				15	
		リハビリテーションと先端テクノロジーⅡ	1		3後						●			15	
	小計（29科目）		39	4	—										
専門科目（両専攻）	共通専門	医療リスクマネジメント	1		3前					●				15	必修4単位 選択2単位 以上
		職場管理論	1		4後								●	15	
		リハビリテーション教育学	2		4後								●	30	
		疼痛リハビリテーション学		1	3前					○				15	
		ウイメンズヘルスケア		1	3前					○				15	
		ヘルスプロモーション		1	3前					○				15	
		認知発達障害ケア		1	3後						○			15	
専門科目（理学療法学専攻）	基礎理学療法学	理学療法概論	2		1前	●								30	必修8単位
		臨床運動学	1		2後				●					30	
		理学療法ゼミナールⅠ	1		3前					●				30	
		理学療法ゼミナールⅡ	1		3後						●			30	
		理学療法卒業研究	2		4後								●	90	
		理学療法総合演習	1		4後								●	30	

科目区分	科目群	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	時間数	卒業に必要な単位数
						配当年次 ●…必修 ○…選択									
専門科目（理学療法学専攻）	理学療法評価学	理学療法基礎評価学	2		2前			●						30	必修 7 単位
		理学療法評価学Ⅰ	1		2前			●						30	
		理学療法評価学Ⅱ	1		2前			●						30	
		理学療法評価学Ⅲ	1		2後				●					30	
		理学療法客観的臨床能力演習Ⅰ	1		3前					●				30	
		理学療法計画論	1		3後						●			30	
	理学療法治療学	基礎運動療法学	1		2前			●						15	必修 21 単位
		義肢装具学Ⅰ	1		2前			●						30	
		義肢装具学Ⅱ	1		2後				●					30	
		物理療法学	1		2後				●					30	
		運動器障害理学療法学Ⅰ	1		3前					●				30	
		運動器障害理学療法学Ⅱ	1		3後						●			30	
		中枢神経障害理学療法学Ⅰ	1		3前					●				30	
		中枢神経障害理学療法学Ⅱ	1		3後						●			30	
		中枢神経障害理学療法学Ⅲ	1		3後						●			15	
		小児期障害理学療法学	1		3前					●				30	
		スポーツ理学療法学	1		3前					●				30	
		内部障害理学療法学Ⅰ	1		3前					●				30	
		内部障害理学療法学Ⅱ	1		3後						●			30	
		内部障害理学療法学Ⅲ	1		3後						●			30	
		老年期障害理学療法学	1		3前					●				30	
		神経筋障害理学療法学	1		3後						●			30	
		日常生活活動学Ⅰ	1		2前			●						30	
		日常生活活動学Ⅱ	1		2後				●					30	
		終末期・緩和理学療法学	2		3後						●			30	
		理学療法客観的臨床能力演習Ⅱ	1		3後						●			30	
	地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ	1		2前			●						30	必修 3 単位
		地域理学療法学Ⅱ	1		2後				●					30	
		福祉用具・生活環境論	1		3前					●				30	
	臨床実習	理学療法見学実習Ⅰ	1		1後		●							45	必修 21 単位
		理学療法見学実習Ⅱ	1		1後		●							45	
		理学療法見学実習Ⅲ	1		2後				●					45	
		理学療法評価実習	6		3後						●			270	
		理学療法総合臨床実習Ⅰ	6		4前							●		270	
		理学療法総合臨床実習Ⅱ	6		4前							●		270	
	小計（47 科目）		64	4	—										

科目区分	科目群	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	配当年次 ●…必修 ○…選択 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	時間数	卒業に必要な単位数
専門科目（作業療法学専攻）	基礎作業療法学	作業療法概論	1		1前	●								30	必修7単位
		基礎作業学	1		2前			●						30	
		作業療法ゼミナールⅠ	1		3前					●				30	
		作業療法ゼミナールⅡ	1		3後						●			30	
		作業療法卒業研究	2		4後								●	90	
		作業療法総合演習	1		4後								●	30	
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ（身体）	1		2前			●						30	必修5単位
		作業療法評価学Ⅱ（精神）	1		2前			●						30	
		作業療法評価学Ⅲ（身体）	1		2後				●					30	
		作業療法評価学Ⅳ（精神）	1		2後				●					30	
		作業療法客観的臨床能力演習Ⅰ	1		3前							●		30	
	作業療法治療学	身体障害作業療法学Ⅰ（総論）	2		2前			●						30	必修19単位
		身体障害作業療法学Ⅱ（運動器）	1		2後				●					30	
		身体障害作業療法学Ⅲ（中枢神経系）	1		3前					●				30	
		身体障害作業療法学Ⅳ（内部障害と難病）	1		3前						●			30	
		精神障害作業療法学Ⅰ	2		3前					●				30	
		精神障害作業療法学Ⅱ	1		3後						●			30	
		発達障害作業療法学Ⅰ	1		2後				●					30	
		発達障害作業療法学Ⅱ	1		3前					●				30	
		老年期障害作業療法学Ⅰ	1		3前					●				30	
		老年期障害作業療法学Ⅱ	1		3後						●			30	
		高次脳機能障害作業療法学Ⅰ	1		3前					●				30	
		高次脳機能障害作業療法学Ⅱ	1		3後						●			30	
		日常生活支援学Ⅰ	1		3前					●				30	
		日常生活支援学Ⅱ	1		3後						●			30	
		作業技術学	1		2後				●					30	
		義肢装具学	1		3前					●				30	
		作業療法客観的臨床能力演習Ⅱ	1		3後						●			30	
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	2		2前			●						30	必修4単位
		地域作業療法学Ⅱ	1		2後				●					30	
		生活環境整備論	1		3後						●			30	

科目区分	科目群	授業科目	単位数		配当年次	配当年次 ●…必修 ○…選択								時間数	卒業に必要な単位数
						1 年		2 年		3 年		4 年			
			必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目（作業療法学専攻）	臨床実習	作業療法見学実習	2		1 後		●							90	必修 25 単位
		地域作業療法実習	1		2 後				●					45	
		作業療法評価実習	6		3 後						●			270	
		作業療法総合臨床実習Ⅰ	8		4 前							●		360	
		作業療法総合臨床実習Ⅱ	8		4 前							●		360	
	小計（43 科目）		64	4	—										

【理学療法学専攻】		授業科目	演習・実習	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	理学療法学専攻　科目ナンバリング 学科	専攻	必修選択	分野	履修順位	枝番	ナンバリングコード
共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	演習	1前	1								
		英語Ⅱ	演習	1後	1								
		英会話Ⅰ	演習	1前	1								
		英会話Ⅱ	演習	1後	1								
		中国語基礎Ⅰ	講義	1前		1							
		中国語基礎Ⅱ	講義	1後		1							
		中国語会話	演習	1前		1							
		スペイン語基礎Ⅰ	講義	1前		1							
		スペイン語基礎Ⅱ	講義	1後		1							
		スペイン語会話	演習	1前		1							
		文学	講義	1後		2							
		哲学	講義	1前		2							
		倫理学	講義	1前		2							
		心理学	講義	1前	2								
		行動の科学	講義	1後		2							
		文化人類学	講義	1後		2							
		音楽の世界	講義	1後		2							
		社会学	講義	1後		2							
		日本国憲法	講義	1前		2							
		歴史学	講義	1後		2							
		地理学	講義	1後		2							
		数学の世界	講義	1前		2							
		自然科学の基礎	講義	1後		2							
		環境化学の基礎	講義	1後		2							
		健康スポーツ（理論）	講義	1前	1								
		健康スポーツ（実技）	実習	1後		1							
		パラスポーツ指導論	演習	1後		1							
		スポーツ実技Ⅰ	実習	1前		1							
		スポーツ実技Ⅱ	実習	1後		1							
	共生教養	共生と社会	講義	1後		2							
		人権論	講義	1前		2							
		ボランティア活動	講義	1前	2								
		生活と環境	講義	1前		2							
	奈良・国際	奈良学	講義	1前		2							
		けいはんな学研都市学	講義	1後	1								
		異文化コミュニケーション	講義	1後		2							
		国際事情	講義	1後		2							
	情報教養	情報機器の操作	講義	1前	2								
		情報倫理とセキュリティ	講義	1前		2							
		データの世界	講義	1前		2							
		情報と分析	講義	1後	2								
		ＣＧの基礎と演習	講義	1後		2							
	キャリア形成	キャリアデザインⅠ	演習	1前		1							
		キャリアデザインⅡ	演習	1後		1							
		キャリアディベロップメントⅠ	演習	2前		1							
		キャリアディベロップメントⅡ	演習	2後		1							
	導入基礎	ラーニングスキルズ	演習	1前	1								
		ライティングスキル	演習	1後	1								
	小　計（卒業要件）				16	5							
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ	講義	1前	2		R	A	1	b	2	01	RA1b201
		人体構造学Ⅱ	講義	1後	1		R	A	1	b	2	02	RA1b202
		人体構造学Ⅲ	講義	1後	1		R	A	1	b	2	03	RA1b203
		人体構造学演習	実習	1後	1		R	A	1	b	3	04	RA1b304
		人体機能学Ⅰ	講義	1前	2		R	A	1	b	2	05	RA1b205
		人体機能学Ⅱ	講義	1後	1		R	A	1	b	2	06	RA1b206
		人体機能学演習	実習	2前	1		R	A	1	b	3	07	RA1b307
		人間発達学	講義	1前	1		R	A	1	b	2	08	RA1b208
		運動学Ⅰ	講義	1後	2		R	A	1	b	2	09	RA1b209
		運動学Ⅱ	講義	2前	2		R	A	1	b	2	10	RA1b210
	小　計（卒業要件）				14								
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	講義	1前	2		R	A	1	b	2	11	RA1b211
		痛み学概論	講義	1前	2		R	A	1	b	2	12	RA1b212
		精神医学	講義	1後	2		R	A	1	b	2	13	RA1b213
		整形外科学	講義	2前	2		R	A	1	b	2	14	RA1b214
		神経内科学	講義	2前	2		R	A	1	b	2	15	RA1b215
		内科学	講義	2後	2		R	A	1	b	2	16	RA1b216
		心身医学概論	講義	2後		2	R	A	2	b	2	17	RA2b217
		臨床心理学	講義	2後	2		R	A	1	b	2	18	RA1b218
		スポーツ医学	講義	2後		2	R	A	2	b	2	19	RA2b219
		薬理学概論	講義	2後	1		R	A	1	b	2	20	RA1b220
		救命救急学概論	講義	3前	1		R	A	1	b	2	21	RA1b221
		病理学	講義	2前	1		R	A	1	b	2	22	RA1b222
		栄養学	講義	2前	1		R	A	1	b	2	23	RA1b223
	小　計（卒業要件）		小　計		18	2							
	保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	講義	1前	1		R	A	1	b	2	24	RA1b224
		チーム医療論	演習	1後	1		R	A	1	b	2	25	RA1b225
		国際リハビリテーション論	講義	2前	1		R	A	1	b	2	26	RA1b226
		先端リハビリテーション論	講義	2後	2		R	A	1	b	2	27	RA1b227
		リハビリテーションと先端テクノロジーⅠ	講義	3前	1		R	A	1	b	3	28	RA1b328
		リハビリテーションと先端テクノロジーⅡ	講義	3後	1		R	A	1	b	4	29	RA1b429
	小　計（卒業要件）				7								

【理学療法学専攻】		授　業　科　目	演習・実習	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	理学療法学専攻　科目ナンバリング 学科	専攻	必修選択	分野	履修順位	枝番	ナンバリングコード
専門科目	両専攻共通 専門	医療リスクマネジメント	講義	3前	1		R	A	1	c	3	01	RA1c301
		疼痛リハビリテーション学	講義	3前		1	R	A	2	c	3	02	RA2c302
		ウイメンズヘルスケア	講義	3前		1	R	A	2	c	3	03	RA2c303
		ヘルスプロモーション	講義	3前		1	R	A	2	c	3	04	RA2c304
		認知発達障害ケア	講義	3後		1	R	A	2	c	3	05	RA2c305
		職場管理論	講義	4後	1		R	A	1	c	3	06	RA1c306
		リハビリテーション教育学	講義	4後	2		R	A	1	c	3	07	RA1c307
	小　計（卒業要件）				4	2							
	基礎理学療法学	理学療法概論	講義	1前	2		R	P	1	c	2	08	RP1c208
		臨床運動学	講義	2後	1		R	P	1	c	3	09	RP1c309
		理学療法ゼミナールⅠ	講義	3前	1		R	P	1	c	3	10	RP1c310
		理学療法ゼミナールⅡ		3後	1		R	P	1	c	3	11	RP1c311
		理学療法総合演習	演習	4後	1		R	P	1	c	4	12	RP1c412
		理学療法卒業研究	演習	4後	2		R	P	1	c	4	13	RP1c413
	小　計（卒業要件）				8								
	理学療法評価学	理学療法基礎評価学	講義	2前	2		R	P	1	c	2	14	RP1c214
		理学療法評価学Ⅰ	演習	2前	1		R	P	1	c	3	15	RP1c315
		理学療法評価学Ⅱ	演習	2前	1		R	P	1	c	3	16	RP1c316
		理学療法評価学Ⅲ	演習	2後	1		R	P	1	c	3	17	RP1c317
		理学療法客観的臨床能力演習Ⅰ	演習	3前	1		R	P	1	c	3	18	RP1c318
		理学療法計画論	講義	3後	1		R	P	1	c	3	19	RP1c319
	小　計（卒業要件）				7								
	理学療法治療学	基礎運動療法学	講義	2前	1		R	P	1	c	3	20	RP1c320
		義肢装具学Ⅰ	講義	2前	1		R	P	1	c	3	21	RP1c321
		義肢装具学Ⅱ	講義	2後	1		R	P	1	c	3	22	RP1c322
		日常生活活動学Ⅰ	講義	2前	1		R	P	1	c	3	23	RP1c323
		日常生活活動学Ⅱ	演習	2後	1		R	P	1	c	3	24	RP1c324
		物理療法学	講義	2後	1		R	P	1	c	3	25	RP1c325
		運動器障害理学療法学Ⅰ	講義	3前	1		R	P	1	c	3	26	RP1c326
		運動器障害理学療法学Ⅱ	演習	3後	1		R	P	1	c	4	27	RP1c427
		スポーツ理学療法学	講義	3前	1		R	P	1	c	3	28	RP1c328
		中枢神経障害理学療法学Ⅰ	講義	3前	1		R	P	1	c	3	29	RP1c329
		中枢神経障害理学療法学Ⅱ	演習	3後	1		R	P	1	c	4	30	RP1c430
		中枢神経障害理学療法学Ⅲ	講義	3後	1		R	P	1	c	3	31	RP1c331
		神経筋障害理学療法学	講義	3後	1		R	P	1	c	3	32	RP1c332
		内部障害理学療法学Ⅰ	講義	3前	1		R	P	1	c	3	33	RP1c333
		内部障害理学療法学Ⅱ	演習	3後	1		R	P	1	c	4	34	RP1c434
		内部障害理学療法学Ⅲ	講義	3後	1		R	P	1	c	3	35	RP1c335
		小児期障害理学療法学	講義	3前	1		R	P	1	c	3	36	RP1c336
		老年期障害理学療法学	講義	3前	1		R	P	1	c	3	37	RP1c337
		終末期・緩和理学療法学	講義	3後	2		R	P	1	c	3	38	RP1c338
		理学療法客観的臨床能力演習Ⅱ	講義	3後	1		R	P	1	c	4	39	RP1c439
	小　計（卒業要件）				21								
	地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ	講義	2前	1		R	P	1	c	2	40	RP1c240
		地域理学療法学Ⅱ	演習	2後	1		R	P	1	c	3	41	RP1c341
		福祉用具・生活環境論	演習	3前	1		R	P	1	c	3	42	RP1c342
	小　計（卒業要件）				3								
	臨床実習	理学療法見学実習Ⅰ	実習	1後	1		R	P	1	c	3	43	RP1c343
		理学療法見学実習Ⅱ	実習	1後	1		R	P	1	c	3	44	RP1c344
		理学療法見学実習Ⅲ	実習	2後	1		R	P	1	c	3	45	RP1c345
		理学療法評価実習	実習	3後	6		R	P	1	c	4	46	RP1c446
		理学療法総合臨床実習Ⅰ	実習	4前	6		R	P	1	c	4	47	RP1c447
		理学療法総合臨床実習Ⅱ	実習	4前	6		R	P	1	c	4	48	RP1c448
	小　計（卒業要件）				21								

【作業療法学専攻】		授　業　科　目	演習・実習	配当年次	単位数		作業療法学専攻　各ナンバリング						
					必修	選択	学科	専攻	必修選択	分野	履修順位	枝番	ナンバリングコード
共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	演習	1前	1								
		英語Ⅱ	演習	1後	1								
		英会話Ⅰ	演習	1前	1								
		英会話Ⅱ	演習	1後	1								
		中国語基礎Ⅰ	講義	1前		1							
		中国語基礎Ⅱ	講義	1後		1							
		中国語会話	演習	1前		1							
		スペイン語基礎Ⅰ	講義	1前		1							
		スペイン語基礎Ⅱ	講義	1後		1							
		スペイン語会話	演習	1前		1							
		文学	講義	1後		2							
		哲学	講義	1前		2							
		倫理学	講義	1前		2							
		心理学	講義	1前	2								
		行動の科学	講義	1後		2							
		文化人類学	講義	1後		2							
		音楽の世界	講義	1後		2							
		社会学	講義	1後		2							
		日本国憲法	講義	1前		2							
		歴史学	講義	1後		2							
		地理学	講義	1後		2							
		数学の世界	講義	1前		2							
		自然科学の基礎	講義	1後		2							
		環境化学の基礎	講義	1後		2							
		健康スポーツ（理論）	講義	1前	1								
		健康スポーツ（実技）	実習	1後		1							
		パラスポーツ指導論	演習	1後		1							
		スポーツ実技Ⅰ	実習	1前		1							
		スポーツ実技Ⅱ	実習	1後		1							
	共生教養	共生と社会	講義	1後		2							
		人権論	講義	1前		2							
		ボランティア活動	講義	1前	2								
		生活と環境	講義	1前		2							
	奈良・国際	奈良学	講義	1前		2							
		けいはんな学研都市学	講義	1後	1								
		異文化コミュニケーション	講義	1後		2							
		国際事情	講義	1後		2							
	情報教養	情報機器の操作	講義	1前	2								
		情報倫理とセキュリティ	講義	1前		2							
		データの世界	講義	1前		2							
		情報と分析	講義	1後	2								
		ＣＧの基礎と演習	講義	1後		2							
	キャリア形成	キャリアデザインⅠ	演習	1前		1							
		キャリアデザインⅡ	演習	1後		1							
		キャリアディベロップメントⅠ	演習	2前		1							
		キャリアディベロップメントⅡ	演習	2後		1							
	導入基礎	ラーニングスキルズ	演習	1前	1								
		ライティングスキル	演習	1後	1								
	小　計（卒業要件）				16	5							
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ	講義	1前	2		R	A	1	b	2	01	RA1b201
		人体構造学Ⅱ	講義	1後	1		R	A	1	b	2	02	RA1b202
		人体構造学Ⅲ	講義	1後	1		R	A	1	b	2	03	RA1b203
		人体構造学演習	実習	1後	1		R	A	1	b	3	04	RA1b304
		人体機能学Ⅰ	講義	1前	2		R	A	1	b	2	05	RA1b205
		人体機能学Ⅱ	講義	1後	1		R	A	1	b	2	06	RA1b206
		人体機能学演習	実習	2前	1		R	A	1	b	3	07	RA1b307
		人間発達学	講義	1前	1		R	A	1	b	2	08	RA1b208
		運動学Ⅰ	講義	1後	2		R	A	1	b	2	09	RA1b209
		運動学Ⅱ	講義	2前	2		R	A	1	b	2	10	RA1b210
	小　計（卒業要件）				14	0							
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	講義	1前	2		R	A	1	b	2	11	RA1b211
		痛み学概論	講義	1前	2		R	A	1	b	2	12	RA1b212
		精神医学	講義	1後	2		R	A	1	b	2	13	RA1b213
		整形外科学	講義	2前	2		R	A	1	b	2	14	RA1b214
		神経内科学	講義	2前	2		R	A	1	b	2	15	RA1b215
		内科学	講義	2後	2		R	A	1	b	2	16	RA1b216
		心身医学概論	講義	2後		2	R	A	2	b	2	17	RA2b217
		臨床心理学	講義	2後	2		R	A	1	b	2	18	RA1b218
		スポーツ医学	講義	2後		2	R	A	2	b	2	19	RA2b219
		薬理学概論	講義	2後	1		R	A	1	b	2	20	RA1b220
		救命救急学概論	講義	3前	1		R	A	1	b	2	21	RA1b221
		病理学	講義	2前	1		R	A	1	b	2	22	RA1b222
		栄養学	講義	2前	1		R	A	1	b	2	23	RA1b223
	小　計（卒業要件）		小　計		18	2							
	保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	講義	1前	1		R	A	1	b	2	24	RA1b224
		チーム医療論	演習	1後	1		R	A	1	b	2	25	RA1b225
		国際リハビリテーション論	講義	2前	1		R	A	1	b	2	26	RA1b226
		先端リハビリテーション論	講義	2後	2		R	A	1	b	2	27	RA1b227
		リハビリテーションと先端テクノロジーⅠ	講義	3前	1		R	A	1	b	3	28	RA1b328
		リハビリテーションと先端テクノロジーⅡ	講義	3後	1		R	A	1	b	4	29	RA1b429
	小　計（卒業要件）				7								

【作業療法学専攻】		授　業　科　目	演習・実習	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	作業療法学専攻　各ナンバリング 学科	専攻	必修選択	分野	履修順位	枝番	ナンバリングコード
専門科目	専門 両専攻共通	医療リスクマネジメント	講義	3前	1		R	A	1	c	3	01	RA1c301
		疼痛リハビリテーション学	講義	3前		1	R	A	2	c	3	02	RA2c302
		ウイメンズヘルスケア	講義	3前		1	R	A	2	c	3	03	RA2c303
		ヘルスプロモーション	講義	3前		1	R	A	2	c	3	04	RA2c304
		認知発達障害ケア	講義	3後		1	R	A	2	c	3	05	RA2c305
		職場管理論	講義	4後	1		R	A	1	c	3	06	RA1c306
		リハビリテーション教育学		4後	2		R	A	1	c	3	07	RA1c307
	小　計（卒業要件）				4	2							
	基礎作業療法学	作業療法概論	講義	1前	1		R	0	1	c	2	08	R01c208
		基礎作業学	講義	2前	1		R	0	1	c	2	09	R01c209
		作業療法ゼミナールⅠ	講義	3前	1		R	0	1	c	3	10	R01c310
		作業療法ゼミナールⅡ	講義	3後	1		R	0	1	c	3	11	R01c311
		作業療法総合演習	講義	4後	1		R	0	1	c	4	12	R01c412
		作業療法卒業研究	演習	4後	2		R	0	1	c	4	13	R01c413
	小　計（卒業要件）				7								
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ（身体）	講義	2前	1		R	0	1	c	2	14	R01c214
		作業療法評価学Ⅱ（精神）	講義	2前	1		R	0	1	c	2	15	R01c215
		作業療法評価学Ⅲ（身体）	演習	2後	1		R	0	1	c	3	16	R01c316
		作業療法評価学Ⅳ（精神）	演習	2後	1		R	0	1	c	3	17	R01c317
		作業療法客観的臨床能力演習Ⅰ	演習	3前	1		R	0	1	c	3	18	R01c318
	小　計（卒業要件）				5								
	作業療法治療学	身体障害作業療法学Ⅰ（総論）	講義	2前	2		R	0	1	c	2	16	R01c216
		身体障害作業療法学Ⅱ（運動器）	講義	2後	1		R	0	1	c	2	17	R01c217
		身体障害作業療法学Ⅲ（中枢神経系）	演習	3前	1		R	0	1	c	3	18	R01c318
		身体障害作業療法学Ⅳ（内部障害と難病）	演習	3前	1		R	0	1	c	3	19	R01c319
		精神障害作業療法学Ⅰ	講義	3前	2		R	0	1	c	2	20	R01c220
		精神障害作業療法学Ⅱ	演習	3後	1		R	0	1	c	3	21	R01c321
		発達障害作業療法学Ⅰ	演習	2後	1		R	0	1	c	3	22	R01c322
		発達障害作業療法学Ⅱ	演習	3前	1		R	0	1	c	3	23	R01c323
		老年期障害作業療法学Ⅰ	演習	3前	1		R	0	1	c	3	24	R01c324
		老年期障害作業療法学Ⅱ	演習	3後	1		R	0	1	c	3	25	R01c325
		高次脳機能障害作業療法学Ⅰ	演習	3前	1		R	0	1	c	3	26	R01c326
		高次脳機能障害作業療法学Ⅱ	演習	3後	1		R	0	1	c	3	27	R01c327
		日常生活支援学Ⅰ	演習	3前	1		R	0	1	c	3	28	R01c328
		日常生活支援学Ⅱ	演習	3後	1		R	0	1	c	3	29	R01c329
		作業技術学	演習	2後	1		R	0	1	c	3	30	R01c330
		義肢装具学	演習	3前	1		R	0	1	c	3	31	R01c331
		作業療法客観的臨床能力演習Ⅱ	演習	3後	1		R	0	1	c	4	32	R01c432
	小　計（卒業要件）				19								
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	講義	2前	2		R	0	1	c	3	33	R01c333
		地域作業療法学Ⅱ	演習	2後	1		R	0	1	c	3	34	R01c334
		生活環境整備論	演習	3後	1		R	0	1	c	4	35	R01c435
	小　計（卒業要件）				4								
	臨床実習	作業療法見学実習	実習	1後	2		R	0	1	c	3	36	R01c336
		地域作業療法実習	実習	2後	1		R	0	1	c	3	37	R01c337
		作業療法評価実習	実習	3後	6		R	0	1	c	4	38	R01c438
		作業療法総合臨床実習Ⅰ	実習	4前	8		R	0	1	c	4	39	R01c439
		作業療法総合臨床実習Ⅱ	実習	4前	8		R	0	1	c	4	40	R01c440
	小　計（卒業要件）				25								